

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年6月26日

【事業年度】 第106期(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

【会社名】 東京貿易ホールディングス株式会社

【英訳名】 TOKYO BOEKI HOLDINGS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 坪内 秀介

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋二丁目2番1号

【電話番号】 03-6633-5263

【事務連絡者氏名】 グループ会計部長 中棚 進

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋二丁目2番1号

【電話番号】 03-6633-5263

【事務連絡者氏名】 グループ会計部長 中棚 進

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第102期	第103期	第104期	第105期	第106期
決算年月		2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高	(百万円)	32,586	35,883	49,074	57,263	63,783
経常利益	(百万円)	3,527	3,706	5,234	4,763	4,594
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	2,197	3,395	3,579	3,926	2,677
包括利益	(百万円)	2,792	3,248	4,165	3,782	3,070
純資産額	(百万円)	34,562	35,768	39,945	43,216	45,680
総資産額	(百万円)	44,643	47,123	59,317	59,663	62,048
1株当たり純資産額	(円)	7,795.48	8,334.20	9,246.65	9,980.47	10,550.92
1株当たり当期純利益	(円)	509.10	795.80	838.84	920.28	627.63
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	77.0	75.5	66.5	71.4	72.6
自己資本利益率	(%)	6.63	9.71	9.54	9.57	6.11
株価収益率	(倍)	-	-	-	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,211	2,635	4,090	4,068	1,201
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,134	776	7,563	808	843
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	423	2,078	619	1,476	1,488
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	18,848	18,717	14,610	18,114	17,064
従業員数 (ほか、平均臨時雇用人員)	(名)	963	966	1,236 (127)	1,235 (145)	1,264 (127)

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため、記載しておりません。
2. 株価収益率については、当社の株式は非上場であり、株価の算定が困難なため、記載しておりません。
3. 従業員数は就業人員であります。なお、第103期までは、パートタイマー、アルバイトの人員数を従業員数に含めておりましたが、第104期より重要性が増したため、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
4. 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)等を第105期の期首から適用しており、第102期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
5. 連結子会社における耐火物の輸入販売取引について、第106期より役割・機能およびリスク負担の実態を踏まえ、収益認識会計基準における本人取引として売上高を総額で認識しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項(6) 重要な収益及び費用の計上基準(追加情報)」に記載のとおりです。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期
決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
営業収益 (百万円)	2,557	2,420	2,669	3,786	3,748
経常利益 (百万円)	1,134	835	1,005	1,378	1,117
当期純利益 (百万円)	1,234	1,942	1,153	2,743	1,504
資本金 (百万円)	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
発行済株式総数 (株)	7,919,920	6,219,920	6,219,920	6,219,920	6,219,920
純資産額 (百万円)	15,860	15,622	16,723	18,421	19,475
総資産額 (百万円)	30,000	29,619	31,772	33,176	34,531
1株当たり純資産額 (円)	3,444.75	3,649.15	3,906.31	4,302.86	4,549.22
1株当たり配当額 普通株式 A種優先株式 (1株当たり中間配当額) 普通株式 A種優先株式 (円)	95.00 15.00 (-) (15.00)	100.00 - (-) (-)	120.00 - (-) (-)	130.00 - (-) (-)	105.00 - (-) (-)
1株当たり当期純利益 (円)	282.51	453.84	269.46	640.94	351.35
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.9	52.7	52.6	55.5	56.4
自己資本利益率 (%)	8.06	12.34	7.13	15.62	7.94
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	33.63	22.03	44.53	20.28	29.88
従業員数 (名)	38	48	52	59	124
株主総利回り (%)	-	-	-	-	-
最高株価 (円)	-	-	-	-	-
最低株価 (円)	-	-	-	-	-

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため、記載しておりません。

2. 株価収益率、株主総利回り、最高株価、最低株価については、当社の株式は非上場であり、株価の算定が困難なため、記載しておりません。

2 【沿革】

1947年10月	(株)東京貿易商会（本店中央区八丁堀、資本金195,000円）を設立、米国への雑貨の輸出及び自転車の国内販売を開始。
1948年4月	本店を中央区日本橋兜町に移転、金属・機械部門に進出。
1954年4月	八幡製鉄（現日本製鉄(株)）の指定業者となる。
1957年6月	東京貿易(株)に社名変更。
1959年9月	英文社名をTOKYO BOEKI LTD.とする。 モスクワ事務所（現連結子会社 TOKYO BOEKI EURASIA LLC）開設。
1960年11月	シドニー事務所開設。
1963年3月	ニューヨーク事務所開設。
1965年12月	メルボルン事務所（現連結子会社 TOKYO BOEKI (AUSTRALIA) PTY.LTD.）開設。
1969年10月	厚木工場完成、操業開始。（現連結子会社 東京貿易テクノシステム(株)）
1974年6月	TOMAS & INAGIKU INTERNATIONAL INC. を設立しレストラン「INAGIKU」をニューヨークに開店。
1980年7月	上海事務所（現連結子会社 東京貿易（中国）有限公司）開設。
1984年5月	MONITOR PRODUCTS, INC. 設立。（2017年3月にて清算）
1986年7月	テービーテック(株)設立。
1990年4月	クアラルンプール事務所開設。
1992年11月	本店を中央区八丁堀に移転。
1994年4月	東京貿易テクノシステム(株)（1994年3月設立 現連結子会社）に旧メカトロシステム事業部の事業を移管。
1995年10月	(株)アムランド（現連結子会社 (株)ティービーアイ）設立。
1999年7月	東京貿易メディカルシステム(株)（東京貿易メディス(株)）設立。
2001年10月	東京貿易メカニクス(株)（現連結子会社）設立。
2002年4月	托馬斯（天津）国際貿易有限公司設立。（2011年12月 東京貿易（北京）有限公司が吸収合併）
2002年11月	ニイガタ・ローディング・システムズ(株)（現連結子会社 TBグローバルテクノロジーズ(株)）設立。
2005年6月	東京貿易（北京）有限公司設立。（2017年10月 東京貿易（中国）有限公司が吸収合併）
2006年10月	分社型新設分割により東京貿易機械(株)（現連結子会社 TBグローバルテクノロジーズ(株)）設立、これにともない当社の機械事業を移管。 分社型新設分割により東京貿易金属(株)（現連結子会社 東京貿易マテリアル(株)）設立、これにともない当社の金属・資材事業を移管。
2007年4月	分社型新設分割により東京貿易CIS(株)（東京貿易テクノロジー(株)）設立、これにともない当社のロシア・CIS事業を移管。
2008年8月	東京貿易テクノシステム(株)「厚木オプティカルテクノロジーセンター」完成。
2013年7月	東京貿易ホールディングス(株)に社名変更。
2014年2月	資本金を50億円に増資。
2015年4月	東京貿易機械(株)は東京貿易マシナリー(株)に、ニイガタ・ローディング・システムズ(株)は東京貿易エンジニアリング(株)に社名変更。
2017年1月	本店を中央区京橋に移転。 東京貿易金属(株)は東京貿易マテリアル(株)に社名変更。
2017年4月	東京貿易マシナリー(株)が、東京貿易テクノロジー(株)を吸収合併し、ロシア・CIS事業を承継。
2018年10月	東京貿易エンジニアリング(株)長岡工場新事務所棟完成。
2020年3月	連結子会社(株)tb innovations設立。
2020年4月	ネクスト新事業新技術1号投資事業有限責任組合を組成。
2021年4月	東京貿易マシナリー(株)は東京貿易エンジニアリング(株)を吸収合併し、TBグローバルテクノロジーズ(株)に社名変更。
2023年5月	播州電装(株)の全株式を取得し、同社と、同社の子会社であるPT. BANSHU ELECTRIC INDONESIAが連結子会社となる。播州電装(株)はTB播州電装(株)に社名変更。
2023年6月	TOKYO BOEKI (RUS) LTD. はTOKYO BOEKI EURASIA LLCに社名変更。
2023年9月	東京貿易マテリアル(株)が日本アドバンスロール(株)の全株式を取得し、同社が連結子会社となる。
2025年2月	TOKYO BOEKI INDIA PRIVATE LIMITED設立。（2027年3月期より連結予定）

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社21社、関連会社4社により構成され、エネルギー機械・セキュリティ機器・三次元測定機・資材・鉄鋼等の分野を中心に事業を展開しています。「事業開発型商社グループ」として社会・顧客の課題を能動的に発見、その課題を解決する当社グループならではの商材やソリューションを創造性をもって開発し、顧客の事業基盤・インフラの維持・発展に貢献していきます。

各分野における当社、関係会社の位置づけ及び事業のセグメントとの関連は次のとおりであります。

(エネルギーインフラ)

当セグメントにおいては、電力・ガス・石油・石油化学など、エネルギー関連業界向けに流体荷役機械及び関連機器、ガス関連各種機械、発電関連機器・装置、環境関連機器などの開発・製造・販売を行っています。主力の流体荷役機械は、製販一貫体制のもと、優れた製品を世界中のユーザーに提供し、高い評価を得ています。

[主な取扱い品目]

流体荷役装置及び関連機器、ガス関連各種機械、発電関連機器・装置等

[主な関係会社]

TBグローバルテクノロジーズ(株)、東京貿易メカニクス(株)

(イメージソリューション)

当セグメントにおいては、セキュリティ機器の開発・製造・販売を行っています。海外の監視カメラを中心としたセキュリティ機器を厳格な品質管理のもと、現地調査からシステム設計、提案・見積り、施工、修理・メンテナンスまでのトータルサービスで国内市場に提供しています。

[主な取扱い品目]

監視カメラ及び画像解析システム、デジタルワイヤレスインカム、アクセスコントロール、インターホン等

[主な関係会社]

(株)ティーピーアイ

(マテリアルサプライ)

当セグメントにおいては、主に鉄鋼・非鉄業界、二輪・四輪業界、建設機械業界に対し、資材、部品の開発・製造・販売を行っています。

鉄鋼業界向けには、中国の合弁会社で開発・製造した耐火物を安定供給し、デジタル技術を使ったトータルソリューションを提供しています。また、鋼材・鋼板などの製造に必要な圧延用ロールの素材から完成品までの一貫生産体制を国内に有し、ESR製鋼技術や高度な熱処理技術により生産される製品は鉄鋼・非鉄メーカーから高く評価されています。

二輪・四輪業界、建設機械業界向けには、オートバイ、建設機械の電装部品であるワイヤーハーネスの生産拠点を国内外に有し、開発・設計・生産計画・製造・検査検品・出荷納品までの一貫生産体制を構築し、お客様の多様な要望にスピーディーに応えています。また、高級鋼をはじめとする各種鋼材を東南アジア・南アジアを中心とした市場に供給しています。

[主な取扱い品目]

製鉄用耐火レンガ・耐火材原料、セラミック及び資機材、鉄鋼製品、ワイヤーハーネス、各種圧延用鍛造ロール等

[主な関係会社]

東京貿易マテリアル(株)、TB播州電装(株)、PT.BANSHU ELECTRIC INDONESIA、Elcon Banshu Wiring System Pvt. Ltd.、日本アドバンスロール(株)、東京貿易(中国)有限公司、済南魯東耐火材料有限公司

(スマートマニュファクチャリング)

当セグメントにおいては、三次元測定機などから収集されたデータおよび製造の現場などで蓄積された知見・ノウハウなどを、関連ソフトウェアおよびIoT製品などを活用し、生産性向上の為のソリューションとしてご提案・ご提供しています。

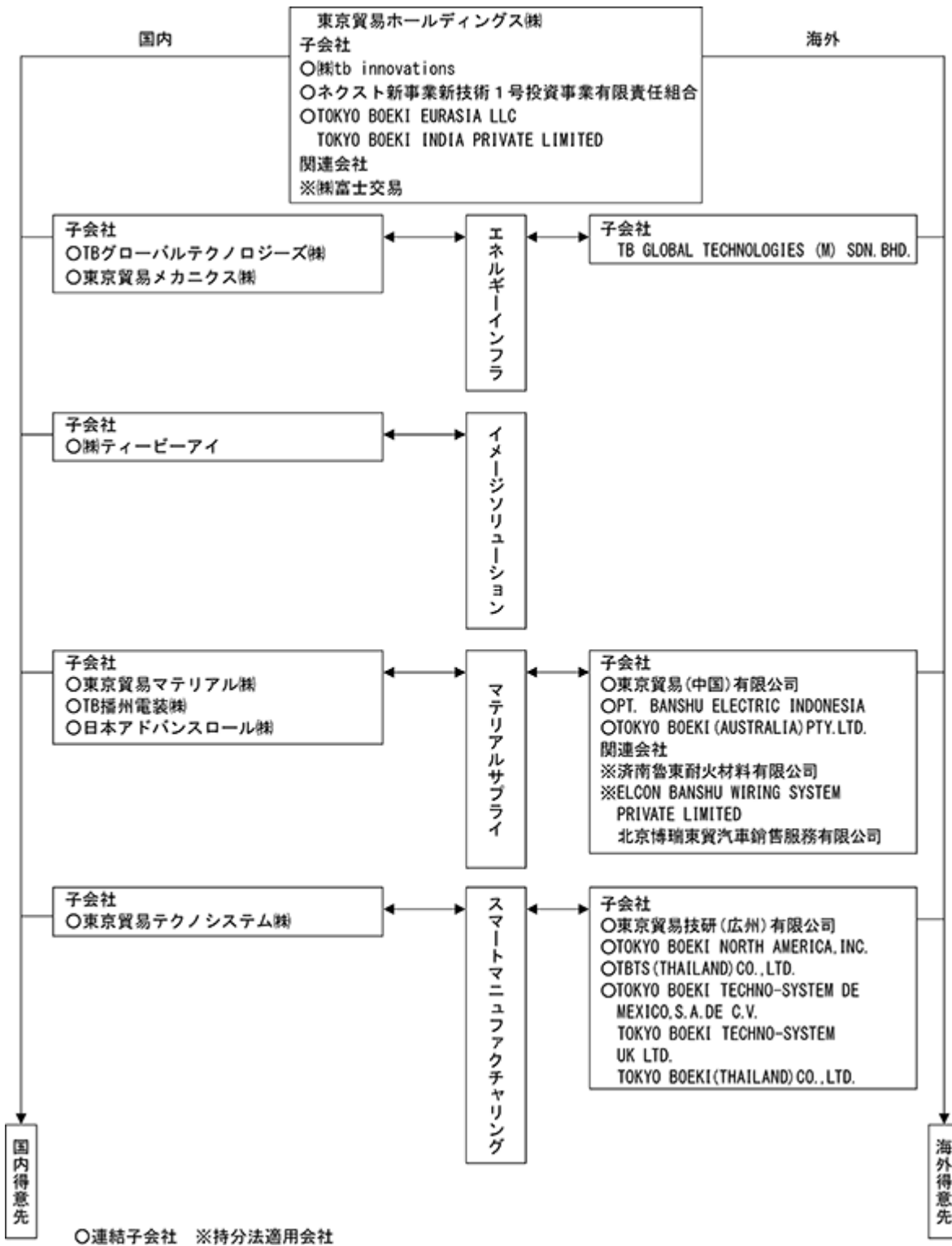
[主な取扱い品目]

三次元測定機、モデル加工機、計測データ管理ソフトウェア等

[主な関係会社]

東京貿易テクノシステム(株)、東京貿易技研(広州)有限公司、TOKYO BOEKI NORTH AMERICA, INC.、TOKYO BOEKI TECHNO-SYSTEM UK LTD.、TOKYO BOEKI TECHNO-SYSTEM DE MEXICO, S.A. DE C.V.、TBTS (THAILAND) CO., LTD.

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) TBグローバルテクノロジーズ(株) (注) 3, 6	東京都中央区	400	流体荷役機械 開発・製造・販売	100.0	債務保証あり 役員の兼任 3名
東京貿易メカニクス(株) (注) 3	東京都中央区	100	産業機械製造販売	100.0	役員の兼任 2名
(株)ティーピーアイ (注) 3, 6	東京都中央区	450	セキュリティシステム機器 販売	100.0	役員の兼任 2名
東京貿易マテリアル(株) (注) 3, 6	東京都中央区	400	資材・鉄鋼等輸出入販売	100.0	資金援助あり 債務保証あり 役員の兼任 3名
TB播州電装(株)	兵庫県加古川市	50	ワイヤーハーネス 製造・販売	100.0	資金援助あり 役員の兼任 5名
日本アドバンスロール(株) (注) 2, 6	茨城県ひたちなか市	310	各種圧延用鍛造ロール 開発・製造・販売	100.0 (100.0)	役員の兼任 3名
東京貿易(中国)有限公司 (注) 3	上海市 中華人民共和国	RMB 117,664,400	資材、原料の販売	100.0	役員の兼任 1名
PT. BANSHU ELECTRIC INDONESIA (注) 2	西ジャワ州 インドネシア	IDR 4,708,000,000	ワイヤーハーネス 製造・販売	55.0 (55.0)	役員の兼任 3名
東京貿易テクノシステム(株) (注) 3, 6	東京都中央区	340	三次元測定機器 開発・製造・販売	100.0	資金援助あり 役員の兼任 2名
TOKYO BOEKI NORTH AMERICA, INC. (注) 2, 5	KENTUCKY州 U. S. A.	US\$ 100,000	三次元測定機器 販売・メンテナンス	100.0 (100.0)	資金援助あり 債務超過
TBTS(THAILAND)CO.,LTD. (注) 2	バンコク タイ王国	THB 3,000,000	三次元測定機器 販売・メンテナンス	68.6 (19.6)	
東京貿易技研(広州)有限公司 (注) 2	広州市 中華人民共和国	RMB 1,374,072	三次元測定機器 販売・メンテナンス	100.0 (100.0)	
TOKYO BOEKI TECHNO-SYSTEM DE MEXICO, S.A.DE C.V. (注) 2	アグアスカリエンテス メキシコ	MXN 1,000,000	三次元測定機器 販売・メンテナンス	100.0 (100.0)	
(株)tb innovations	東京都中央区	400	戦略投資、コンサルティング・リサーチ、新事業開発	100.0	役員の兼任 3名
TOKYO BOEKI EURASIA LLC	モスクワ ロシア	RUB 82,000,000	産業機械、理科学機器 販売	100.0	資金援助あり
ネクスト新事業新技術1号投資事業 有限責任組合 (注) 2, 3	東京都中央区	4,000	投資事業	100.0 (1.0)	出資の引受
その他1社					
(持分法適用関連会社)					
(株)富士交易	東京都中央区	95	各種機械販売業	28.9	
済南魯東耐火材料有限公司	済南市 中華人民共和国	RMB 120,786,000	耐火物 製造・販売	28.0	
ELCON BANSHU WIRING SYSTEM PRIVATE LIMITED (注) 2	ラージャンスターン州 インド	INR 100,000,000	ワイヤーハーネス 製造・販売	35.0 (35.0)	

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、事業部門等を記載しております。

2. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は、間接所有であります。

3. 特定子会社であります。

4. 上記会社のうち有価証券届出書または有価証券報告書の提出会社に該当するものではありません。

5. 債務超過会社であり、債務超過額は115百万円であります。

6. TBグローバルテクノロジーズ(株)、(株)ティーピーアイ、東京貿易テクノシステム(株)、東京貿易マテリアル(株)、日本アドバンスロール(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	純資産額	総資産額
TBグローバルテクノロジーズ(株)	15,223	3,166	2,244	12,218	17,167
(株)ティービーアイ	13,881	1,380	1,007	7,051	10,468
東京貿易テクノシステム(株)	7,793	658	468	4,795	7,482
東京貿易マテリアル(株)	7,762	883	841	2,877	9,147
日本アドバンスロール(株)	7,247	748	513	3,026	5,344

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、核心的価値観である「全員経営の精神（創業の精神）」のもと、新たな「パーパス」「ビジョン」及び「行動指針」を以下のとおり定め、経営を行っております。

<パーパス>

ともに、動かそう。

社会を、突き動かそう。

ともに、次のステージへ。

<ビジョン>

わたしたちは、創業以来、時代の潮流を捉え、市場を開拓し、

あらゆる課題に社員全員で挑戦してきた。

次のステージに向けて、これからも、企業が抱える課題を解決することにとどまらず、

粘り強く誠実に提案し続けることで、社会の役に立ち、時代をともに突き動かしていく。

社員ひとりひとりが、ヒト・モノ・技術・アイデアを越境させ合いつなぐことで、

わたしたちらしく成長し、事業を拡張し、社会に貢献していくのだ。

<行動指針>

開拓力 わたしたちは、時代の機運を捉えて未来の可能性に挑み、

顧客と自らの成長を実現していきます。

共創力 わたしたちは、縦・横・斜めの境界を超えた協業により、

新たな価値を生み出していきます。

突破力 わたしたちは、粘り強く、主体的に行動することで、

前例のない結果と成果を成し遂げます。

誠実 わたしたちは、社会や顧客の課題に誠実に向き合い、

信頼を得ることで、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

闊達 わたしたちは、ひとり一人の価値観を尊重し、

対話ができ、自由闊達に働ける環境づくりに努めます。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、経営戦略の遂行にあたり、グループ資産の効率的活用と株主資本に対する収益性を重視し、それぞれROAとROEを重要な経営指標として掲げ、グループ経営を効率的に推進し、企業価値の最大化を目指してまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、2024年度から2027年度の第7次中期経営計画を策定し、2024年度より開始しております。この中期経営計画の実行を通じて、より効率的な経営体制の構築と持続的な成長を目指してまいります。創業80周年を迎える2027年度（最終年度）には、グループ連結売上高1,000億円、営業利益100億円を目標として設定しています。

(4) 会社の対処すべき課題

第7次中期経営計画の2年目となる当連結会計年度においては、売上高は増収となったものの、営業利益は物価高や賃上げ等のコスト上昇に加え、次なる成長に向けた戦略的施策の実行に伴う販管費の増加により、減益となりました。中期経営計画の利益目標に対して遅れが生じた現状も踏まえ、計画達成に向けては、社会課題を起点とした新たな事業価値の創出を加速させることが鍵であると改めて強く認識しております。

こうした認識のもと、社会課題を解決する「事業開発型商社グループ」へと変革すべく、全社的な取り組みを推進しております。

ソフト面（意識改革）においては、「社員の幸せ」「会社の成長」「社会への貢献（社会課題の解決）」の「三位一体」を目指し、新たなパーパス・ビジョンの定着に注力しています。また「人材育成センター」を開設し、当社グループの成長を支える人材育成を本格化させるとともに、目標管理制度の運用を高度化し、組織目標と個人の成長の連動強化を図ってまいります。

ハード面（組織構造改革）においては、市場ニーズに対応する「セグメント経営」を推進しております。各セグメントの持続的成長を確固たるものにするため、2026年度より主なグループ会社の社長交代を実施しました。セグメントCEOによる確かなサポートのもとで、新体制を着実に定着させ、将来にわたり成長し続ける強固な経営基盤の構築を進めてまいります。また、2025年10月に「経営プラットフォーム」を本格稼働させました。グループの総合力を発揮し事業成長を支える経営基盤の確立を目指してまいります。あわせて「委任型執行役員制度」をグループ会社にも導入し、業務執行の迅速化と監督機能強化によるガバナンス向上を図るとともに、権限と責任をより明確にした経営体制へ移行いたします。

これらの変革を通じて組織全体の競争力を高め、企業価値向上に努めてまいります。

また、セグメント別での事業上の課題は次のとおりです。

「エネルギーインフラ」セグメントは、TBグローバルテクノロジーズ株式会社と東京貿易メカニクス株式会社で構成されております。当セグメントでは、エネルギートランジションに伴う市場変化への迅速な対応を最重要課題と認識しております。当面は、オフショアLNG市場への本格参入、アンモニアや液化水素等次世代エネルギー向けローディングアームのデファクトスタンダード化を推進いたします。また、マレーシア新工場の稼働や海外拠点の設立等を通じたグローバル供給体制の構築とコスト競争力の強化を図ります。さらに、デジタル新サービスの創出や新たな流体移送関連機器の拡充を進め、顧客提供価値の最大化と持続的な成長を目指してまいります。

「イメージソリューション」セグメントは、株式会社ティービーアイ及び2026年4月に設立したエアアイリンク株式会社で構成されております。主力の映像セキュリティ領域の強化を継続するとともに、当社の強みであるエッジデバイスのクラウド連携を進めソリューションとしてのレイヤーアップを図ることによりお客様のビジネスへ繋がるサービスへ進化させてまいります。具体的には、労働力不足を背景とした省人省力化を中核のビジネス領域と捉え、当社が提供する映像音声プラットフォームに「アクセスコントロール」「IoTセンサー」「警備ロボット」等を連携させたシステム開発と提案を推進し、「課題解決企業」への進化を目指してまいります。またフィジカルAIの社会実装とアライアンスの拡充を通じ、持続的な成長を実現してまいります。

「マテリアルサプライ」セグメントは、東京貿易マテリアル株式会社、日本アドバンスロール株式会社、TB播州電装株式会社、PT. BANSHU ELECTRIC INDONESIA及び東京貿易（中国）有限公司で構成されております。当セグメントは、「個社の成長」と「セグメント間の連携強化」によるシナジー創出を通じ、新たな事業領域への拡大を目指しております。当面の課題として、市況変動に強い収益基盤の構築が挙げられます。資材事業やワイヤーハーネス事業、鍛造ロール事業などの既存事業においては、新領域への進出、コスト構造の改善、高付加価値製品へのシフトにより、着実な収益力強化を図ります。また、鉄鋼・鍛造ロール・ワイヤーハーネス事業で、成長著しいインド市場での事業展開を加速させるとともに、M&Aや事業投資等も積極的に活用し、セグメントの持続的な成長を実現してまいります。

「スマートマニュファクチャリング」セグメントは、東京貿易テクノシステム株式会社と海外現地法人5社で構成されております。製造業における労働人口減少を背景に、国内外で自動化・省人化への投資ニーズが高まる中、組立工程を主とする量産ビジネスへの本格参入や、CPS（サイバーフィジカルシステム）に寄与するソフトウェアの開発・拡販を推進します。また、海外展開に向けた販売・サポート体制の確立を急ぐとともに、新たに導入したビジネスユニット体制のもとで確実な利益創出を図ります。自動化ソリューションを軸に顧客のモノづくり変革を牽引し、当セグメントのビジネスを飛躍的に成長させてまいります。

当社グループは第7次中期経営計画の実行・実現を通じ、さらなる発展を目指し、変化する市場環境に適応しながら、お客様・社会に大きく貢献してまいります。

持続可能な成長と企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) ガバナンス

昨今、経済活動のグローバル化やIT化が大きく進展したことに伴い、企業の事業活動は情報社会において危機にさらされる場面が増えてきており、企業のサステナビリティを確保するうえでサイバーセキュリティ対策は欠かせない要素となっております。

当社グループにおいては、自らを取り巻く様々なリスクの中から情報セキュリティリスクを早急に対処が必要なものとして認識し、社長執行役員を長とするリスク管理委員会及びコンプライアンス委員会において管理を行っております。

(2) 戦略

当社グループにおける、人材の多様性の確保を含む人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針は、以下のとおりであります。

多種多様な人材の採用

2025年度に採用センターを立ち上げ、グループ採用の体制を整備しております。グローバル人材採用も引き続き取り組んでおり、主に新卒ではパイリンガルに特化したキャリアフォーラムに参加し採用実績が出てまいりました。

中途採用においては、グループ横断でポジションサーチを行える体制が整ってきております。さらに経営層に近い採用はリテナー採用を活用し、人材獲得に努めてまいりました。外部採用のみならず、社内人材活用の仕組みとしてグループ内公募制度を導入しました。今後、この制度を活用し、社内キャリアアップをめざせる環境醸成をするとともに、新卒・中途採用市場を鑑みた採用手法を取り入れ、人材を充足させる体制を整え、事業成長を支えてまいります。

社員の成長支援の取り組み

人材育成センターでは、「事業開発型商社グループ」を支える人と組織文化の形成を目的に「自ら学び、気づきを創出し、仲間を作る場」の構築を進めております。次世代経営人材育成プログラムの実施や、外部講師を招いて改めて「学びの重要性」について考える場を設けるなどの取り組みも行っております。

多様な人材が働きやすい職場づくり

国籍や性別、新卒・キャリア採用の区別なく、社員一人ひとりが働きがいを感じられる職場づくりを行っております。服装自由化もグループ全体で導入したほか、柔軟な働き方としてテレワークの試験的導入を行っております。

組織課題の可視化と改善

組織課題を可視化し改善を図るべく、2024年度よりエンゲージメントサーベイを実施しております。分析結果を経営層やグループ各社、各部門にフィードバックし、改善のための施策立案・実行のサイクルを構築してまいります。今後も定期的にも実施していく予定です。

(3) リスク管理

当社グループは、情報セキュリティリスクによって受ける影響を日常から検討を行うとともに、そのリスクが特定部門に限られたものではなくグループ全社員に関係するものであることを、研修等を通じ啓発を進めております。

このような活動を通じて得られたリスク評価の結果は、リスク管理委員会及びコンプライアンス委員会へ報告されると同時にグループ各社にも共有され、必要な対処について協議・検討・実行が図られるよう体制を構築しております。

企業戦略に影響するサイバーセキュリティを含めた世の中の動向や法制度・規制変更等の外部要因の共有や、グループ各社の施策の進捗状況や今後のリスク・機会等の内部要因を踏まえて、戦略・施策等の検討を実施してまいります。

(4) 指標及び目標

当社グループでは、上記「(2)戦略」において記載した、人材の多様性の確保を含む人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針に基づき取り組んでおり、現在の取組状況は次のとおりであります。

採用体制の強化

採用センターを立ち上げたことにより、採用担当者の育成を推進しております。さらに、面接官トレーニングも実施しました。引き続き採用担当者及び面接官の育成を継続して強化します。

企業内大学「Tokyo Boeki Academy」の設立

興味・課題を起点とした教育プログラム、イベントを自ら立案する仕組みを行い、「自ら学び、気づきを創出し、仲間を作る場」として、企業内大学「Tokyo Boeki Academy」を設立しました。

DEIの推進・浸透

グループ横断型のDEI推進プロジェクトチームを組成し、DEIに関する社内啓発活動やDEI研修など、社内でのDEIに関する理解浸透を図っております。

エンゲージメントサーベイ平均スコアの向上及び会社間・部門間格差の縮小

エンゲージメントサーベイの結果から抽出した複数の指標を定量化し進捗を定期測定します。各社及びグループ全体の平均値の向上を目標とします。

3 【事業等のリスク】

当社グループは、国内及び海外において各種製品・商品の販売を行う他、情報、技術、ファイナンス等に関するサービスの提供その他幅広い多角的事業に取り組んでおります。

このため、各国の法規制・経済状況、各通貨の為替相場・金利水準等の変動により経営成績・財政状態が影響を受ける可能性があります。なお、為替相場等に関しましては、為替予約等により相場の急激な変動リスクをヘッジしております。

また、当社グループでは、投資事業組合を通じたベンチャー企業等への投資を行っております。新規投資においては、事業計画の実現可能性を精査した上で投資意思決定を行い、既存投資においては、定期的なモニタリングを実施する等リスク軽減に努めておりますが、投資リスクは完全に回避できず、投資の一部又は全部が損失となることにより、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

当連結会計年度における世界経済は、通商政策の不確実性や世界的な貿易活動の減速、企業マインドの悪化などを背景に、不安定な状況で推移しました。米国では関税政策の影響により輸出入動向に変化が生じたほか、欧州では景気停滞懸念や政治・政策面の不透明感が続き、中国においても不動産市場の調整長期化や内需の低迷による景気回復の鈍さがみられました。また、中東情勢の緊迫化に伴う資源価格の動向も、世界経済の不確実性を高める要因となりました。

わが国経済においては、海外経済の減速や関税の影響を受けて外需に弱さがみられたものの、賃上げを背景とする雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の持ち直しや、企業収益の底堅さを背景とした設備投資の増加に支えられ、内需主導で緩やかな回復基調を維持しました。

このような環境の中、東京貿易グループ(TB-GR)では、「エネルギーインフラ」「イメージソリューション」「マテリアルサプライ」「スマートマニュファクチャリング」の4セグメントにおいて、一貫して専門性の高い独自の事業・サービスの提供を通じ、企業価値の最大化と持続的な成長発展の実現に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は637億83百万円（前期比+11.4%）、営業利益は41億48百万円（前期比8.1%）、経常利益は45億94百万円（前期比3.6%）、親会社株主に帰属する当期純利益は26億77百万円（前期比31.8%）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。なお、セグメント利益は全社費用等調整前のセグメント営業利益の金額であります。

（エネルギーインフラ）

主力のローディングアーム事業において受注時期の遅れなどがありましたが、収益性の高い国内及び海外における補修案件、国内のローディングアーム新規案件が好調となった結果、増収増益となり前年同期を上回りました。この結果、当連結会計年度の売上高は173億88百万円（前期比+10.1%）、セグメント利益は33億15百万円（前期比+13.6%）となりました。

（イメージソリューション）

主力のセキュリティ関連事業における出荷台数の減少や大型案件の遅延影響およびインフォリンク事業における補助金採択の遅れにより、売上高は前年同期を下回りました。また、成長戦略の実行に伴う人員増による人件費の増加や最先端技術の開発を推進したことにより、営業利益も前年同期を下回りました。この結果、当連結会計年度の売上高は138億81百万円（前期比1.0%）、セグメント利益は13億24百万円（前期比22.7%）となりました。

（マテリアルサプライ）

鍛造ロール事業は、海外向け販売および当社独自に開発した高付加価値製品の国内販売がともに好調に推移しました。資材事業においても、耐火物取引が堅調であったことに加え、大型契約の受注が業績に寄与しました。また、鉄鋼事業ではインド・韓国向けのステンレス販売が好調に推移しました。一方、ワイヤーハーネス事業では、世界的な建機需要の落ち込みに底打ちの兆しが見られ、建機向けは回復傾向となっているものの、海外向け二輪関連の売上は減少しました。なお、耐火物の輸入販売取引について、従来は売上高を純額で認識しておりましたが、当連結会計年度の期首から売上高を総額で認識しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4 . 会計方針に関する事項 (6) 重要な収益及び費用の計上基準（追加情報）」に記載のとおりです。以上の結果、マテリアルサプライセグメント全体では増収増益となり、前年同期を上回りました。この結果、当連結会計年度の売上高は241億11百万円（前期比+36.5%）、セグメント利益は17億3百万円（前期比+9.7%）となりました。

(スマートマニュファクチャリング)

関税を始めとする自動車市場を取り巻く事業環境は不透明な状態が継続した一方、国内は非自動車向け、海外は中国市場向けを中心に売上高及び利益が前年同期を上回りました。この結果、当連結会計年度の売上高は87億1400万円（前期比+5.2%）、セグメント利益は6億1000万円（前期比+11.3%）となりました。

上記のほか、「全社（共通）」セグメントにおいて、2020年4月に設立したコーポレートベンチャーキャピタル（CVC）であるネクスト新事業新技術1号投資事業有限責任組合を通じて、当連結会計年度においては既存投資先への追加投資を3件実施し、累計投資件数は21件となりました。引き続き当社グループの成長のため、既存投資先の状況を踏まえつつ、適切な投資管理に努めてまいります。

受注及び販売の実績は、次のとおりであります。

(受注実績)

受注高と売上高の差額は僅少であるため、記載は省略しております。

(販売実績)

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
エネルギーインフラ	17,388	+ 10.1
イメージソリューション	13,881	1.0
マテリアルサプライ	24,111	+ 36.5
スマートマニュファクチャリング	8,714	+ 5.2
その他	178	89.9
調整額	491	-
合計	63,783	+ 11.4

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去等であります。

2. 相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
セコム株式会社	11,080	19.3	10,676	16.7

(2) 財政状態

当連結会計年度末の総資産は、前期比23億8400万円増加の620億4800万円となりました。

流動資産は、受取手形、売掛金及び契約資産の増加等により、前期比20億7700万円増加の467億8100万円となりました。

固定資産は、投資有価証券の増加等により、前期比3億7000万円増加の152億6700万円となりました。

流動負債は、契約負債の増加等により、前期比5億9300万円増加の155億5500万円となりました。

固定負債は、長期借入金の減少等により、前期比6億7200万円減少の8億1100万円となりました。

また、純資産の部は、利益剰余金の増加等により、前期比24億6300万円増加し、456億8000万円となりました。

この結果、自己資本比率は72.6%（前期比+1.2ポイント）となりました。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ10億50百万円減少し、170億64百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、獲得した資金は12億1百万円（前連結会計年度は40億68百万円を獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益を43億22百万円計上したことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、使用した資金は8億43百万円（前連結会計年度は8億8百万円の獲得）となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出7億19百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、使用した資金は14億88百万円（前連結会計年度は14億76百万円の使用）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出6億42百万円によるものです。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、内部資金で十分な資金流動性を確保しており、事業の運転資金、設備投資資金、研究開発等の資金需要に迅速に対応しております。

(4) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。重要な会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。連結財務諸表の作成においては、過去の実績や現在の状況を勘案して、合理的な基準に基づいて会計上の見積りを行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。会計上の見積りに用いた仮定のうち、重要なものは、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（重要な会計上の見積り）」に記載しております。

5 【重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当連結会計年度の研究開発費の総額は3億31百万円であります。

エネルギーインフラにおいては、洋上プラント向けローディングアームの接続作業を自動化するシステム「CHOKUSEN」の開発等により、2億47百万円を計上しました。

なお、その他の事業セグメントにおいては、特記すべき事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は、有形固定資産及び無形固定資産への投資を含め7億86百万円であります。その主なものは、マテリアルサプライにおいて、機械装置の取得等に1億29百万円、スマートマニュファクチャリングにおいて、工具器具備品の取得等に1億13百万円の投資を実施しております。

当連結会計年度において、重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2026年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	その他		合計
本社 (東京都中央区)	全社	本社機能及 び関係会社 賃貸設備等	85	6	()	38		130	124 ()
保養施設 (長野県北佐久郡 軽井沢町)	全社	保養施設	167		125 (10.4)	2		295	

(2) 国内子会社

2026年3月31日現在

会社名	セグメント の名称	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	その他		合計
TBグローバル テクノロ ジーズ(株)	エネルギー インフラ	長岡工場 (新潟県 長岡市)	流体荷役 機械製造 工場	687	347	632 (29.5)	39		1,706	137 (4)
TB播州電装 (株)	マテリアル サプライ	加古川工場 (兵庫県加古 川市)	ワイヤー ハーネス 製造工場	265	3	487 (8.0)	8		765	195 (116)
日本アドバ ンスロール (株)	マテリアル サプライ	日立工場 (茨城県ひた ちなか市)	圧延用 ワーク ロール等 製造設備	95	414	()	113	2	625	180 ()
東京貿易テ クノシステ ム(株)	スマートマ ニュファク チャリング	厚木 テクニカル センター (神奈川県厚 木市)	測定機械 製造工場	263	0	56 (6.0)	162	0	483	42 ()

(3) 在外子会社

2026年3月31日現在

会社名	セグメント の名称	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	その他		合計
PT. BANSHU ELECTRIC INDONESIA	マテリアル サプライ	インドネシア	ワイヤー ハーネス 製造工場	231	130	35 (6.7)	27	89	514	34 ()

- (注) 1. 本社建物については賃借しており、その一部を連結子会社へ転貸しております。
 2. 帳簿価額は、建設仮勘定を除く有形固定資産の合計であります。
 3. その他については、主にリース資産であります。
 4. 従業員数の()は、臨時従業員数を外書きしております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 時期	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
TBグローバルテクノロジーズ(株)	長岡工場 (新潟県長岡市)	エネルギー インフラ	流体荷役機械 製造工場耐震 補強工事	2,370		自己資金	2026年8月	2029年初頭	

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,819,920
計	36,819,920

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2026年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2026年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,219,920	6,219,920	非上場	(注)1,2
計	6,219,920	6,219,920		

(注) 1. 株式の譲渡制限に関する規定は次のとおりです。

当社の発行する全部の株式については、会社法第107条第1項第1号に定める内容（いわゆる譲渡制限）を定めており、当該株式の譲渡または取得について取締役会の承認を要する旨を定款第6条において定めております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月31日 (注)	1,700,000	6,219,920		5,000		

(注) 自己株式(A種優先株式)の消却による減少であります。

(5) 【所有者別状況】

2026年3月31日現在

区分	株式の状況							単元未 満株式 の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)		5		4		2	111	122	
所有株式数 (株)		1,228,560		240,100		23,100	4,728,160	6,219,920	
所有株式数 の割合(%)		19.7		3.9		0.4	76.0	100.0	

(注) 自己株式1,938,780株は、「個人その他」に含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2026年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
東貿持株会	東京都中央区京橋2丁目2-1	791	18.49
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6-4	423	9.88
トーア再保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台3丁目6-5	408	9.53
町田 弘	東京都立川市	273	6.38
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	175	4.10
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	120	2.80
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2丁目2-1	102	2.38
三菱UFJキャピタル株式会社	東京都中央区日本橋2丁目3-4	100	2.34
加藤 富弘	東京都台東区	96	2.24
三菱マテリアル株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目2-3	85	1.99
計	-	2,574	60.14

(注) 上記のほか自己株式1,938千株を保有しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2026年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,938,780 (相互保有株式) 普通株式 50,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,231,140	4,231,140	
単元未満株式			
発行済株式総数	6,219,920		
総株主の議決権		4,231,140	

【自己株式等】

2026年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京貿易ホールディング ス(株)	東京都中央区京橋2 丁目2-1	1,938,780		1,938,780	31.17
(相互保有株式) 株富士交易	東京都中央区八重洲 2丁目1-8	50,000		50,000	0.80
計		1,988,780		1,988,780	31.97

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	1,938,780		1,938,780	

3 【配当政策】

当社は、株主様への利益配分を安定かつ継続的に実施することを経営課題の一つとして考えております。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を行うことを基本的な方針としており、期末配当の決定機関は株主総会であり、なお、当社は取締役会決議にて中間配当を行うことが出来る旨を定款に定めております。

当事業年度の剰余金配当につきましては、株主様への継続的な安定配当の基本方針のもと、近年の利益水準を勘案し、1株につき普通配当105円といたしました。

なお、内部留保資金の用途につきましては、今後の事業展開への備えと研究開発費用として投入していくこととしております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額(円)
2026年6月26日 定時株主総会決議	449	105

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

経営判断的確かつ迅速化をはかると同時に、経営の透明性をより高める経営チェック機能の充実を、経営最重要課題の一つと位置付けリスク管理の強化、コンプライアンスの徹底に努めております。

企業統治に関する事項

イ．会社の機関の内容

取締役会は、原則として毎月1回開催し、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会においては、経営の基本方針その他重要事項を決定するとともに、業務執行状況に関する報告を受け業務執行状況の監督機能を果たしております。

また、当社は監査役制度を採用しており、社外監査役は2名であります。

監査役会は、原則として毎月1回開催しております。監査役は監査役会で定めた監査方針・監査計画に従い、株主利益の重視及び法令遵守の観点から、業務監査を実施し、取締役会への出席を通じて組織運営体制の監視を行っております。また、定期的に会計監査人と連携をとりながら監査の充実をはかっております。

ロ．内部統制システムの整備状況

2006年5月1日開催の取締役会において内部統制システム構築の基本方針を制定し、運用しております。

具体的には、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、「コンプライアンス行動指針」を定め、同行動指針に基づいたコンプライアンス委員会の設置、コンプライアンス相談窓口の開設等を通じて遵守体制を整備するとともに、取締役会及び監査役会による監督、監査役及び財務諸表提出会社による内部監査を通じて取締役及び社員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制を維持しております。

ハ．リスク管理体制の整備状況

リスク管理体制については、取締役会、監査役会の連携のもとにリスク情報の共有化をはかり、事業の推進に伴って生じ得る損失の把握・分析を行い、これに対応しております。

また、リスク管理委員会を設置してリスク情報の集約をはかるとともに、必要に応じ顧問弁護士や公認会計士等の専門家から助言を受けております。

ニ．提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社グループ全体において、東京貿易グループ経営の強化の一環として、当社グループにおける業務の適正性を確保するため、グループ会社に対する監査及び財務諸表提出会社による内部監査を定期的実施しています。

このほか、規程関係の整備、中期経営計画に基づく年度計画管理及び予算統制を実施すること等により、経営の透明性、効率性を高めるべく、内部統制システムの整備、運用の徹底を最重要課題として取り組んでおります。

ホ．執行役員制度の導入

当社は、第105回定時株主総会を通じて、経営意思決定の迅速化と取締役会の経営監督機能の一層の強化を目的として、委任型執行役員制度を導入いたしました。また、経営判断と業務執行の迅速化、ガバナンスの明確化及び次世代経営人材の育成を企図して、グループ会社にも委任型執行役員制度の適用を拡張しました。

本制度の導入を通じて当社グループの体制強化を図り、中期経営計画の達成に向けて努めてまいります。

ヘ．役員報酬の内容

取締役4名101百万円（うち社外取締役1名10百万円）、監査役4名42百万円（うち社外監査役2名13百万円）であります。

企業統治に関するその他の事項

当社は、取締役及び監査役（社外含む）全員を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険（D&O保険）契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約では、役員等がその職務の執行に関し責任を負うこと、また当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずる損害等を当該契約により填補することとしております。

取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を16回開催しており、個々の取締役の出席状況は次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
坪内 秀 介	16回	16回
重 住 寛	16回	16回
中 川 伸 吾	16回	16回
佐 藤 誠 治	16回	16回

取締役会においては、経営の基本方針及び経営上の重要事項についての審議及び決定を行うとともに、月次での予実管理分析等を実施し、経営の監督を行っております。

取締役の定数

当社の取締役数は15名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社の取締役選任決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

中間配当金

当社は、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）ができる旨定款に定めております。これは、中間配当を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的としたものであります。

株主総会の特別決議要件を変更した場合

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 7 名 女性 1 名 （役員のうち女性の比率 12.5%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)	
代表取締役 社長執行役員	坪内 秀 介	1961年1月6日生	1984年4月	当社入社	(注)3	54,000
			2002年7月	当社エネルギー事業部長		
			2006年10月	東京貿易機械株式会社（現 TBグローバルテクノロジー株式会社）取締役エネルギー機械事業部長		
			2012年4月	同社常務取締役エネルギー機械事業部長		
			2015年4月	東京貿易マシナリー株式会社（現 TBグローバルテクノロジー株式会社）代表取締役社長		
			2017年4月	当社取締役副社長		
			2018年4月	東京貿易メカニクス株式会社代表取締役社長		
			2019年4月	東京貿易エンジニアリング株式会社（現 TBグローバルテクノロジー株式会社）代表取締役社長		
			2022年6月	TBグローバルテクノロジー株式会社代表取締役会長 当社代表取締役社長		
			2025年4月	TBグローバルテクノロジー株式会社代表取締役		
			2025年6月	同社取締役(現) 当社代表取締役社長執行役員兼グループCEO(現)		

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 副社長執行役員 マテリアルサプライ セグメントCEO	重 住 寛	1955年9月5日生	1980年4月	当社入社	(注)3	30,000
			1991年4月	東京貿易豪州法人責任者		
			2004年4月	同社原料部長		
			2006年10月	東京貿易金属株式会社(現 東京貿易マ テリアル株式会社)原料部長		
			2008年6月	同社取締役原料部長		
			2010年10月	東京貿易豪州法人 社長		
			2013年10月	東京貿易金属株式会社(現 東京貿易マ テリアル株式会社)取締役営業本部長		
			2015年4月	同社代表取締役社長(現 東京貿易マテ リアル株式会社)		
			2022年6月	当社取締役		
			2023年4月	当社取締役副社長		
			2025年4月	マテリアルサプライセグメントCEO(現)		
			2025年6月	当社取締役副社長執行役員(現)		
			2026年4月	東京貿易マテリアル株式会社代表取締役		
2026年6月	同社取締役(現)					
取締役 常務執行役員	中 川 伸 吾	1961年3月28日生	1983年4月	株式会社東京銀行(現 株式会社三菱UFJ 銀行)入行	(注)3	1,170
			2013年9月	当社入社 グループ事業推進本部財務部グルー プリーダー		
			2018年4月	当社執行役員事業推進部長		
			2020年4月	当社執行役員財務部長		
			2022年6月	当社取締役財務部長		
			2024年4月	当社取締役		
			2025年6月	当社取締役執行役員(コーポレート担当)		
2026年4月	当社取締役常務執行役員(コーポレート 担当)(現)					
取締役	佐 藤 誠 治	1958年12月31日生	1982年4月	当社入社	(注)3	
			1989年1月	株式会社三井銀行(現 株式会社三井住 友銀行)入行		
			2001年4月	大和証券SMBC株式会社(現 大和証券株 式会社)企業提携部		
			2006年4月	同社執行役員(M&A担当)		
			2008年4月	株式会社三井住友銀行 バンコク支店長		
			2010年4月	同行執行役員 本店営業第三部長		
			2013年4月	同行常務執行役員 本店営業部担当		
			2015年6月	三井倉庫ホールディングス株式会社 取締役上級執行役員 副財務責任者		
			2016年4月	株式会社東京スター銀行 副頭取		
			2017年4月	同行頭取		
			2020年6月	株式会社デサント 社外取締役		
			2020年8月	Apollo Management Japan Ltd. シニアアドバイザー		
			2022年1月	当社シニアアドバイザー		
			2022年6月	当社取締役(現)		
			2024年4月	関西エアポート株式会社 社外取締役(監査等委員)(現)		
2025年12月	HSG Advisors JP株式会社 副会長(現)					

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	坂井 常敏	1961年11月1日生	1986年4月 株式会社三菱銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行 2014年12月 当社グループ経営管理本部 経営経理部副部長 2016年9月 当社執行役員第二コーポレート部長 2018年6月 当社取締役経営推進部長 2020年6月 東京貿易マシナリー株式会社取締役(現 TB グローバルテクノロジーズ株式会社) 東京貿易エンジニアリング株式会社取締役(現 TBグローバルテクノロジーズ株式会社) 2021年4月 TBグローバルテクノロジーズ株式会社 取締役経営全般管掌 2022年11月 株式会社ティービーアイ取締役 2023年1月 同社取締役財務・経理本部長 2024年6月 当社監査役(現)	(注)4	5,000
常勤監査役	松田 大	1965年8月14日生	1991年4月 株式会社北海道拓殖銀行入行 1998年5月 当社入社 経理部 2010年9月 東京貿易メカニクス株式会社管理部次長 2011年11月 同社管理部長 2017年4月 同社横浜事業所長 2018年4月 同社執行役員管理部長 2019年6月 同社取締役管理部長 2022年4月 同社取締役新事業開発室長 2026年6月 当社監査役(現)	(注)5	20,000
監査役	沼田 美穂	1975年4月18日生	2009年12月 弁護士登録 沼田法律事務所入所 2016年1月 沼田法律事務所所長就任(現) 2016年6月 早稲田大学商議員(現) 2018年4月 東京簡易裁判所民事調停委員 2020年6月 当社監査役(現) 2021年6月 株式会社有沢製作所社外取締役(現) 2025年4月 第一東京弁護士会副会長	(注)4	
監査役	櫻井 賢治	1959年5月16日生	1984年4月 株式会社三菱銀行(現 株式会社三菱UFJ銀行)入行 2004年11月 同行今里支社長 2006年10月 同行八尾支社長 2010年4月 同行錦糸町支社長 2012年1月 同行法人業務部 部長(西日本担当) 2016年6月 エムエスティ保険サービス株式会社専務取締役 2018年6月 エム・ユー・フロンティア債権回収株式会社 代表取締役副社長 2021年6月 同社顧問 2022年3月 当社仮監査役 2022年6月 当社監査役(現)	(注)4	
計					110,170

- (注) 1. 取締役佐藤誠治は社外取締役であります。
2. 監査役櫻井賢治、沼田美穂の2名は、社外監査役であります。
3. 2026年6月26日開催の定時株主総会終結の時から1年間。
4. 2024年6月25日開催の定時株主総会終結の時から4年間。
5. 2026年6月26日開催の定時株主総会終結の時から4年間。
6. 当社は、2025年6月25日開催の定時株主総会の承認を経て、経営意思決定の迅速化、及び取締役会の経営監督機能をより一層高めることを目的として、経営の意思決定機能・監督機能を分離する執行役員制度を導入しております。

社外役員の状況

当社の社外取締役は佐藤誠治の1名であります。当社は佐藤誠治との人的関係、資本的关系その他の利害関係はありません。

当社の社外監査役は櫻井賢治、沼田美穂の2名であります。当社は両氏との人的関係、資本的关系その他の利害関係はありません。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、常勤監査役2名及び社外監査役2名で構成されており、業務監査として、取締役の職務執行の監査、取締役会の意思決定の監査を行い、会計監査として、会計監査人の独立性の監視、計算書類等の監査、会計監査人からの報告の監査を行っております。

当事業年度において当社は監査役会を12回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

区 分	氏 名	開 催 回 数	出 席 回 数
常勤監査役	柴田 憲章	12回	12回
常勤監査役	坂井 常敏	12回	12回
社外監査役	沼田 美穂	12回	12回
社外監査役	櫻井 賢治	12回	12回

監査役会は、期末において会計監査人より監査の手続き並びに監査結果の概要につき報告を受け意見交換を行っております。また、監査環境の整備、会計監査人の監査の相当性やグループ内の不祥事等への対応について、各監査役と協議を行いました。

また、常勤監査役は、当社及び当社グループ会社の取締役会等重要な会議に出席し、取締役の職務執行の状況を監査し、その内容を監査役会に報告しております。また、内部監査部と都度情報交換を行うほか、内部監査部は監査結果を監査役会に報告しております。

内部監査の状況

当社における内部監査は、社長直轄の組織として内部監査部長を監査責任者とする内部監査部が、当社をはじめ子会社における内部統制の整備・運用状況、業務の有効性・効率性、法令順守の状況を監査しております。内部監査は、監査役監査及び会計監査人監査との三様監査体制を旨とし、相互に連携をとりながら有効かつ効率的な監査の実施に努めております。また、内部監査の実効性を確保するための取り組みとして、内部監査部は当社および子会社に対して3年で一巡する内部監査に加え、毎年リスクアプローチに基づくテーマ監査を実施する体制を構築しております。特に経営上重要と考えられる点については、経営者の認識を踏まえつつ、重点的に監査を実施しております。

なお、当社は、内部監査の実効性を確保するための取り組みとして、内部監査部が取締役会並びに監査役会のいずれにも緊密に連携・報告できる体制を維持、運用しております。また、監査役及び会計監査人との情報・意見の交換を適時に行うなど、連携して監査の実効性と効率性を高めております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

b. 継続監査期間

19年間

c. 業務を執行した公認会計士

陶江 徹

吹上 剛

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士11名、その他12名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人候補者から、監査法人の概要、監査の実施体制、監査報酬の見積り額について書面を入手した上で、当社グループの多様な事業、地域、業務内容に対応し、効率的かつ効果的な監査業務を実施することができる一定の規模と世界的ネットワークを持つ監査法人であること、監査の品質管理体制が確保されていること、並びに監査日数及び具体的な監査実施要領、監査報酬が合理的かつ妥当であることを総合的に判断し会計監査人を選定しております。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役及び監査役会は、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを検証するとともに、会計監査人と適時かつ適切に意見交換等の連携を確保し、事業年度を通して監査業務の適切性を評価しております。また、監査法人から日本公認会計士協会による品質管理レビュー結果報告を聴取する等、総合的に検討した結果、会計監査人の職務執行に問題はないと評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	43		40	
連結子会社	2	0	2	
計	45	0	42	

連結子会社における非監査業務の内容は、合意された手続業務であります。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク（Grant Thorntonのメンバーファーム）に対する報酬（a.を除く）

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社				
連結子会社	1			
計	1			

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案した上で、決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の規模、複雑性、リスクに照らして監査報酬を検証した結果、合理的であると判断しております。

(4) 【役員の報酬等】

当社は非上場会社であるため、記載すべき事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

当社は非上場会社であるため、記載すべき事項はありません。

5 【従業員の状況等】

(1) 【人材戦略に関する基本方針等】

連結会社の経営方針・経営戦略等に関連付けた連結会社の人材戦略

当社グループは、第7次中期経営計画に基づき、従来の連邦型経営からグループ一体経営への転換を進め、セグメント経営の導入を通じて持続的な成長を目指しております。このような経営戦略の実現に向けては、各セグメントにおける専門性の強化とともに、グループ横断で価値創出を担う人材の育成が重要であると認識しております。

当社グループでは、自律的に価値創出ができる人材を中核とし、これを基盤として新たな事業を創出できる人材、さらにグローバルに活躍できる人材の育成を段階的に推進することを人材戦略の基本方針としております。

当社グループは、メーカー機能と商社機能を併せ持つ独自の事業構造を有しており、加えてインドをはじめとする海外拠点の拡大など、事業のグローバル化も進展しております。このような環境下においては、既存事業の深化のみならず、新規事業の創出や市場変化への柔軟な対応が求められております。

このため、各社の求める人材像及び必要なスキルを明確化し、グループ全体として一貫した人材育成の方針を策定しております。具体的には、人材育成センターを設置するとともに、「Tokyo Boeki Academy」を立ち上げ、グループ共通での育成・研修体制を整備しております。これにより、共通基盤スキルの底上げを図るとともに、各社の事業特性に応じた専門人材の育成にも取り組んでおります。

また、新規事業や投資の推進においては、従来の事業領域にとらわれない柔軟な発想と実行力を持つ人材の重要性が高まっており、今後もこうした人材の育成・確保を強化してまいります。

連結会社の従業員の賞与を含む給与等の額・内容の決定に関する方針

当社グループは、グループ全体の持続的な成長と企業価値の向上を実現するためには、各社の成長を支える人材の成長と適切な評価・処遇が不可欠であると考えております。

この考え方にに基づき、当社グループでは、役割等級制度を基軸としたグループ共通の人事制度を導入する予定としております。本制度は、各人材に求められる役割と責任の大きさに応じて等級を定め、その達成度や成果に基づいて評価を行い、報酬へ反映する仕組みとするものです。

これにより、社員一人ひとりが担う役割を明確化するとともに、自律的な価値創出を促し、その成果を適切に評価・処遇へ反映することで、個人の成長とグループ全体の成長の好循環を実現してまいります。

また、本制度はホールディングスである当社を中心に、主要子会社を含むグループ全体に適用することを想定しており、統一的な人材マネジメントの実現を図ります。

(2) 【従業員の状況】

連結会社の状況

2026年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
エネルギーインフラ	399 (4)
イメージソリューション	205 (-)
マテリアルサプライ	348 (119)
スマートマニュファクチャリング	170 (1)
全社(共通)	142 (3)
合計	1,264 (127)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
 2. 臨時従業員数には、パートタイマー、アルバイトの従業員を含み、派遣社員を除いております。
 3. 当連結会計年度末時点の従業員数(臨時従業員数を含む)は1,384名であります。
 4. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

提出会社の状況

2026年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)	平均年間給与の対前 事業年度増減率(%)
124 (-)	43.8	6.6	9,922	6.6

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 連結財務諸表提出会社は、持株会社であり、セグメントは「全社(共通)」であります。

最大人員会社の状況

ア 当事業年度における従業員数が最も多い会社

TBグローバルテクノロジーズ(株)

2026年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)	平均年間給与の対前 事業年度増減率(%)
329 (4)	42.2	11.5	7,447	3.6

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

イ 上記アの会社の次に従業員数が多い会社

(株)ティービーアイ

2026年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)	平均年間給与の対前 事業年度増減率(%)
205 (-)	45.1	8.1	8,587	4.0

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

労働組合の状況

労使関係については特に記載すべき事項はありません。

管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

ア 提出会社

提出会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

イ 連結子会社

名称	管理職に占める 女性労働者の割合 (%) (注1)	当事業年度					
		男性労働者の育児休業取得率(%) (注2)			労働者の男女の賃金の差異(%) (注1)		
		全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者	全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者
TBグローバル テクノロジーズ(株)	12.5	63.6	63.6	-	68.2	37.3	66.1

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の財務諸表については、太陽有限責任監査法人の監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するために特段の取組について

当社は、連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、各種法人が開催するセミナーに参加しております。また、各種法人が発行する情報誌の定期購読により、会計基準等の情報を適時に入手し、連結財務諸表等の作成に反映させております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,515	17,242
受取手形、売掛金及び契約資産	1, 4 14,470	1 16,627
商品及び製品	2 3,748	2 4,512
仕掛品	2 3,417	3,926
原材料	3,241	3,046
その他	1,310	1,426
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	44,703	46,781
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4 4,496	4 4,563
減価償却累計額	2,569	2,694
建物及び構築物（純額）	1,926	1,868
機械装置及び運搬具	4,112	4,270
減価償却累計額	3,080	3,345
機械装置及び運搬具（純額）	1,031	924
工具、器具及び備品	3,416	3,580
減価償却累計額	2,853	3,058
工具、器具及び備品（純額）	562	522
土地	4 1,374	4 1,369
リース資産	249	227
減価償却累計額	63	86
リース資産（純額）	185	141
建設仮勘定	60	93
有形固定資産合計	5,141	4,919
無形固定資産		
ソフトウェア	298	262
ソフトウェア仮勘定	15	41
のれん	976	893
特許権	557	470
その他	11	9
無形固定資産合計	1,858	1,678
投資その他の資産		
投資有価証券	3 5,904	3 6,336
退職給付に係る資産	735	942
繰延税金資産	346	361
その他	4 1,005	4 1,061
貸倒引当金	33	33
投資その他の資産合計	7,959	8,669
固定資産合計	14,959	15,267
資産合計	59,663	62,048

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,802	6,908
短期借入金	4 1,572	4 1,438
1年内返済予定の長期借入金	214	214
契約負債	1,264	2,362
資産除去債務	2	2
製品保証引当金	125	176
賞与引当金	1,250	1,338
工事損失引当金	2 30	2 84
未払法人税等	701	1,010
その他	1,997	2,021
流動負債合計	14,962	15,555
固定負債		
長期借入金	804	162
退職給付に係る負債	442	411
その他	236	237
固定負債合計	1,484	811
負債合計	16,446	16,367
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	55	55
利益剰余金	36,429	38,550
自己株式	564	564
株主資本合計	40,920	43,041
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	343	499
繰延ヘッジ損益	33	97
為替換算調整勘定	1,277	1,443
退職給付に係る調整累計額	76	130
その他の包括利益累計額合計	1,663	1,975
非支配株主持分	633	663
純資産合計	43,216	45,680
負債純資産合計	59,663	62,048

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)	
売上高	1	57,263	1	63,783
売上原価	3, 4	36,380	3, 4	42,705
売上総利益		20,883		21,078
販売費及び一般管理費	2, 3	16,367	2, 3	16,930
営業利益		4,515		4,148
営業外収益				
受取利息		25		65
受取配当金		28		414
持分法による投資利益		86		165
為替差益		79		-
賃貸料収入		57		66
固定資産売却益		26		39
助成金収入		54		-
その他		103		134
営業外収益合計		461		886
営業外費用				
支払利息		117		106
投資事業組合運用損		2		77
為替差損		-		169
和解金		25		-
その他		67		86
営業外費用合計		212		440
経常利益		4,763		4,594
特別利益				
投資有価証券売却益	5	751		-
関係会社株式売却益		345		-
特別利益合計		1,097		-
特別損失				
投資有価証券評価損	6	111	6	271
特別損失合計		111		271
税金等調整前当期純利益		5,749		4,322
法人税、住民税及び事業税		1,426		1,600
法人税等調整額		298		38
法人税等合計		1,725		1,561
当期純利益		4,024		2,761
非支配株主に帰属する当期純利益		98		83
親会社株主に帰属する当期純利益		3,926		2,677

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日)
当期純利益	4,024	2,761
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	532	107
繰延ヘッジ損益	74	64
為替換算調整勘定	294	125
退職給付に係る調整額	21	55
持分法適用会社に対する持分相当額	49	85
その他の包括利益合計	1,242	1,309
包括利益	3,782	3,070
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,641	2,990
非支配株主に係る包括利益	140	79

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,000	55	33,015	564	37,506
当期変動額					
剰余金の配当			513		513
親会社株主に帰属する当期純利益			3,926		3,926
連結範囲の変動			1		1
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	3,413	-	3,413
当期末残高	5,000	55	36,429	564	40,920

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘 定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	898	41	950	55	1,946	492	39,945
当期変動額							
剰余金の配当							513
親会社株主に帰属する当期純利益							3,926
連結範囲の変動							1
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	555	74	326	20	282	140	142
当期変動額合計	555	74	326	20	282	140	3,271
当期末残高	343	33	1,277	76	1,663	633	43,216

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,000	55	36,429	564	40,920
当期変動額					
剰余金の配当			556		556
親会社株主に帰属する当期純利益			2,677		2,677
連結範囲の変動					-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		0			0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	0	2,121	-	2,121
当期末残高	5,000	55	38,550	564	43,041

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘 定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	343	33	1,277	76	1,663	633	43,216
当期変動額							
剰余金の配当							556
親会社株主に帰属する当期純利益							2,677
連結範囲の変動							-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	156	64	165	54	312	30	342
当期変動額合計	156	64	165	54	312	29	2,463
当期末残高	499	97	1,443	130	1,975	663	45,680

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,749	4,322
減価償却費	1,116	1,000
受取利息及び受取配当金	53	480
支払利息	117	106
持分法による投資損益（は益）	86	165
投資有価証券売却損益（は益）	751	-
関係会社株式売却損益（は益）	345	-
投資有価証券評価損益（は益）	111	271
売上債権の増減額（は増加）	656	2,164
棚卸資産の増減額（は増加）	213	1,128
仕入債務の増減額（は減少）	877	874
前渡金の増減額（は増加）	328	46
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	145	207
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	55	32
契約負債の増減額（は減少）	342	1,092
その他	287	288
小計	5,607	2,074
利息及び配当金の受取額	71	499
利息の支払額	117	106
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	1,492	1,266
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,068	1,201
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	251
定期預金の払戻による収入	290	474
有形及び無形固定資産の売却による収入	79	44
有形及び無形固定資産の取得による支出	828	719
投資有価証券の売却による収入	1,013	205
投資有価証券の取得による支出	549	585
子会社株式の売却による収入	736	-
その他	67	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	808	843
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	1,392
短期借入金の返済による支出	675	1,554
長期借入金の返済による支出	214	642
配当金の支払額	513	556
非支配株主への配当金の支払額	-	49
その他	73	77
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,476	1,488
現金及び現金同等物に係る換算差額	86	80
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,487	1,050
現金及び現金同等物の期首残高	14,610	18,114
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	16	-
現金及び現金同等物の期末残高	1 18,114	1 17,064

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 17社

主要な連結子会社名は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(2) 主要な非連結子会社名

TOKYO BOEKI TECHNO-SYSTEM UK LTD.

連結の範囲から除いた理由

TOKYO BOEKI TECHNO-SYSTEM UK LTD.他3社はいずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 3社

会社等の名称

(株)富士交易

済南魯東耐火材料有限公司

ELCON BANSHU WIRING SYSTEM PRIVATE LIMITED

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

非連結子会社

TOKYO BOEKI TECHNO-SYSTEM UK LTD.

関連会社

北京博瑞東貿汽車銷售服務有限公司

持分法を適用しない理由

非連結子会社であるTOKYO BOEKI TECHNO-SYSTEM UK LTD.他3社及び関連会社である北京博瑞東貿汽車銷售服務有限公司は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、TOKYO BOEKI EURASIA LLC.他在外子会社6社及び国内会社1社の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日の財務諸表を使用しております。なお、1月1日から3月31日までの間に生じた重要な取引は、連結上調整しております。

また、ネクスト新事業新技術1号投資事業有限責任組合の決算日は12月31日ではありますが、連結財務諸表の作成に当たっては、3月31日で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券（金銭の信託含む）

市場価格のない株式等以外のもの

時価法

（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法

なお、関連会社でない投資事業有限責任組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。関連会社である組合等については、連結決算日における組合等の仮決算による財務諸表に基づいて、持分相当額を総額で取り込む方法によっております。

デリバティブ

時価法

棚卸資産

商品 主として個別法に基づく原価法

（収益性の低下による簿価切下げの方法）

製品 主として個別法に基づく原価法

（収益性の低下による簿価切下げの方法）

仕掛品 主として個別法に基づく原価法

（収益性の低下による簿価切下げの方法）

原材料 主として移動平均法に基づく原価法

（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～60年

機械装置及び運搬具 2～20年

その他 2～20年

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

諸債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

投資損失引当金

投資に対する損失への対応を図るため、財務健全性の観点から、必要額を計上しております。なお、投資損失引当金は、当該資産の金額から直接控除しております。

製品保証引当金

一部の連結子会社は、納入した製品のメンテナンスに関する費用支出に備えるため、売上高に対する過年度の発生率を基準にした金額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

工事損失引当金

一部の連結子会社は、受注工事の将来の損失に備えるため、工事損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることのできる工事について、その損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度における発生額を、発生の翌連結会計年度において一括で費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益としております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、各々の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

流体荷役機械関連の製造販売及びメンテナンスサービスの提供

エネルギーインフラにおいては、主に流体荷役機械及び関連機器の製造販売及びメンテナンスサービスの提供を行っております。このような取引については一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断し、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した製造原価もしくは工事原価が、予想される見積総原価に占める割合に基づいて行っております。

なお、同様の取引のうち、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合もしくは金額的な重要性が乏しい場合には、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点（主に顧客が検収した時点）で収益を認識しております。

資材・鉄鋼関連の輸出入販売

マテリアルサプライにおいては、主に中国合弁会社の耐火物の輸入販売及び国内鉄鋼メーカーの各種鋼材の輸出入販売を行っております。耐火物の輸入販売については、顧客に引き渡される前に当該財を支配していることから本人取引に該当すると判断し、商品を顧客に引き渡した時点で収益を総額で認識しております。

一方、鋼材の輸出入販売については、顧客への商品の提供において他の当事者により提供される商品を手配する役割を担っていることから代理人取引に該当すると判断し、商品を顧客に引き渡した時点で、他の当事者が提供する商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

(追加情報)

連結子会社における耐火物の輸入販売取引について、従来は売上高を純額で認識しておりましたが、当連結会計年度の期首から売上高を総額で認識しております。

当該取引では従前のトレーディングを主体とした商社の役割から、トータルソリューションを提供する提案型取引として、顧客に対する仕様提案や仕入先に対する技術的指導等の強化拡大を推進してきました。中期経営計画において、当連結会計年度よりセグメント経営を導入し、各事業の収益性・リスク・機能をより精緻に把握・管理する体制へ移行したことに伴い、現在の各事業における商流ごとの取引状況に基づき検討した結果、当該取引は収益認識会計基準における本人取引の要件を満たしていると判断したため、売上高を総額で認識することにしたものであります。

なお、従来の売上高を純額で認識した場合と比べて、当連結会計年度の売上高及び売上原価はそれぞれ56億92百万円増加しておりますが、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益並びに1株当たり情報に与える影響はありません。

また、当年度末決算において当連結会計年度の期首から売上高を総額で認識していることに伴い、当中間連結会計期間においても同様に売上高を総額で認識した場合、売上高及び売上原価はそれぞれ25億15百万円増加しますが、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益並びに1株当たり情報に与える影響はありません。

その他の商品及び製品の販売、役務の提供

原則として、商品及び製品の販売については顧客に引き渡した時点または顧客が検収した時点で収益を認識し、役務の提供については契約の履行義務が充足された一時時点で収益を認識しております。ただし、一部の商品及び製品の国内販売については、出荷時から当該商品または製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。ただし、為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。

・ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引、通貨オプション取引

ヘッジ対象

外貨建金銭債権債務

・ヘッジ方針

為替予約取引、通貨オプション取引は、外貨建金銭債権債務に係る為替変動リスクを回避する目的で行っており、実需の範囲で実施しております。

・ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動と、ヘッジ手段の相場変動を比較し、両者の変動額等を基礎にしてヘッジの有効性を評価しております。ただし、特例処理である振当処理を行っている為替予約取引等については、有効性の評価を省略しております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果の発現する期間にわたって均等償却を行っております。なお、償却期間は10年から14年5ヶ月であります。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産	346	361
繰延税金負債	102	128

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社及び一部の連結子会社は、当連結会計年度末における繰延税金資産の回収可能性についての判断にあたり、会計上の見積りを行っております。この会計上の見積りは、主として、予算や中期経営計画に基づく翌連結会計年度以降の課税所得見込みに基づいて行われます。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際の課税所得が見込みと異なった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

2. 一定の期間にわたり充足される履行義務に係る収益認識

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
一定の期間にわたり充足される履行義務に係る収益(売上高)	6,067	6,244

(注) 上記の内、前連結会計年度末時点で完全な履行義務を充足していない契約(未完了の契約)に係る売上高は2,103百万円になります。また、当連結会計年度末時点で完全な履行義務を充足していない契約(未完了の契約)に係る売上高は1,416百万円になります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

エネルギーインフラにおいては、主に流体荷役機械及び関連機器の製造販売及びメンテナンスサービスの提供を行っております。このような取引については一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断し、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した製造原価もしくは工事原価が、予想される見積総原価に占める割合に基づいて行っております。

対象となる契約は、流体荷役機械及び関連機器の設計、製造、施工、据付、メンテナンス等を請け負うものであり、長期にわたる契約が多く、契約内容も顧客との合意に基づく仕様や現場ごとの条件を満たすため個別性が強い特徴があります。収益認識の基礎となる履行義務の充足に係る進捗度は、決算日までに発生した製造原価もしくは工事原価と見積総原価の比較により算出しておりますが、見積総原価は作業着手後における仕様の変更や現場の状況の変化等により影響を受けることとなります。そのため、契約ごとに実行予算を策定したうえ、作業の進捗状況を踏まえて、適時に見積総原価の見直しを行っておりますが、この見積りは不確実性を伴うため、当社グループの将来業績を変動させる可能性があります。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取り扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

現時点で評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

- 1 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
受取手形	1,398百万円	1,004百万円
売掛金	11,925百万円	14,588百万円
契約資産	1,146百万円	1,034百万円

- 2 棚卸資産及び工事損失引当金の表示

損失の発生が見込まれる工事契約に係る棚卸資産と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。工事損失引当金に対応する棚卸資産の額

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
商品及び製品	6百万円	69百万円
仕掛品	67百万円	-百万円
合計	74百万円	69百万円

- 3 非連結子会社及び関連会社に係る注記

非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,513百万円	2,165百万円

- 4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
売掛金	334百万円	312百万円
建物	272百万円	159百万円
土地	37百万円	35百万円
長期差入保証金	63百万円	81百万円
合計	706百万円	587百万円

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
短期借入金	1,055百万円	1,438百万円
合計	1,055百万円	1,438百万円

- 5 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金等に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
海外向保証(Bonds)	1,334百万円	1,229百万円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、連結財務諸表「注記事項（セグメント情報） 3 . 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報」に記載しております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
賞与引当金繰入額	897百万円	922百万円
従業員給与	4,592百万円	4,678百万円
退職給付費用	228百万円	223百万円

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
	216百万円	331百万円

4 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
	101百万円	63百万円

5 投資有価証券売却益

前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

政策保有目的株式の売却によるものであります。

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

該当事項はありません。

6 投資有価証券評価損

前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

当社グループが保有する「その他有価証券」に区分される有価証券のうち実質価額が著しく下落したものについて、減損処理を実施したものであります。

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

当社グループが保有する「その他有価証券」に区分される有価証券のうち実質価額が著しく下落したものについて、減損処理を実施したものであります。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	27百万円	155百万円
組替調整額	740	-
法人税等及び税効果調整前	713	155
法人税等及び税効果額	180	47
その他有価証券評価差額金	532	107
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	48	142
組替調整額	59	48
法人税等及び税効果調整前	107	94
法人税等及び税効果額	33	29
繰延ヘッジ損益	74	64
為替換算調整勘定		
当期発生額	294	125
為替換算調整勘定	294	125
退職給付に係る調整額		
当期発生額	39	91
組替調整額	9	12
法人税等及び税効果調整前	30	79
法人税等及び税効果額	9	24
退職給付に係る調整額	21	55
持分法適用会社に対する持分 相当額		
当期発生額	49	85
その他の包括利益合計	242	308

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,219,920	-	-	6,219,920

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,953,254	-	-	1,953,254

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年6月25日 定時株主総会	普通株式	513	120	2024年3月31日	2024年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	556	130	2025年3月31日	2025年6月26日

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	6,219,920	-	-	6,219,920

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,953,254	-	-	1,953,254

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年6月25日 定時株主総会	普通株式	556	130	2025年3月31日	2025年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2026年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	449	105	2026年3月31日	2026年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金勘定	18,515百万円	17,242百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	401百万円	178百万円
現金及び現金同等物	18,114百万円	17,064百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産 主として、在外連結子会社のオフィス賃貸に係るもの(建物及び構築物)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
1年以内	686 百万円	412 百万円
1年超	2,345 百万円	1,906 百万円
合計	3,031 百万円	2,319 百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等を中心とし、資金調達については銀行等金融機関からの借入をする方針であります。また、デリバティブは後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うに当たり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、主に取引先企業との業務または資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、グループ成長戦略の一環としてベンチャー企業への投資を進めており、2020年4月に組成したネクスト新事業新技術1号投資事業有限責任組合を通じて、複数の投資案件を実行しております。これらの出資金は投資事業組合の投資先の信用リスクに晒されておりますが、定期的に財務内容を把握することにより管理しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。また、その一部には、海外の仕入の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として先物為替予約及び通貨オプションを利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引及び通貨オプション取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載されている「4. 会計方針に関する事項 (7) 重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権について、当社グループの各管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の連結貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

外貨建ての営業債権債務について、通貨別案件別等に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約及び通貨オプションを利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、内部管理規定である「デリバティブ取引処理要領」に従い、財務部門が取引を行い、主計部門が記帳及び契約先と残高照合等を行っております。運用状況については、定期的に管理部門責任者に報告しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

各部署からの報告に基づき管理部門が適時に資金繰計画を作成・更新する等の方法により管理しております。

投資リスクの管理

他社組成の投資事業組合に対する出資金は、当社財務部門が投資事業組合を通じた情報入手を行い、投資リスクの管理を行っております。また、当社が組成する投資事業組合に関しては、その運営及び管理を連結子会社(株)tb innovationsに委託し、投資先企業に対して財務諸表の提示やモニタリング等を行います。当体制により、当社財務部門が業績・業況を適時把握できる管理体制を整備しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。「現金及び預金」、「受取手形、売掛金及び契約資産」及び「支払手形及び買掛金」及び「短期借入金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前連結会計年度(2025年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
投資有価証券 (1)	1,121	1,121	-
資産計	1,121	1,121	-
長期借入金	1,018	1,018	-
負債計	1,018	1,018	-
デリバティブ取引 (2)	(48)	(48)	-

- (1)市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(百万円)
非上場株式	2,487
関係会社株式	1,513

- (2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。
- (3)連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資については、記載を省略しております。当該出資の連結貸借対照表計上額は781百万円であります。

当連結会計年度(2026年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
投資有価証券 (1)	1,108	1,108	-
資産計	1,108	1,108	-
長期借入金	376	376	-
負債計	376	376	-
デリバティブ取引 (2)	(142)	(142)	-

- (1)市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(百万円)
非上場株式	2,379
関係会社株式	2,165

- (2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。
- (3)連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資については、記載を省略しております。当該出資の連結貸借対照表計上額は682百万円であります。

(注1)金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	18,515	-	-	-
合計	18,515	-	-	-

当連結会計年度(2026年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	17,242	-	-	-
合計	17,242	-	-	-

(注2)長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	672	-	-	672
その他	-	-	449	449
デリバティブ取引				
通貨関連	-	12	-	12
資産計	672	12	449	1,134
デリバティブ取引				
通貨関連	-	61	-	61
負債計	-	61	-	61

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	708	-	-	708
その他	100	-	300	400
デリバティブ取引				
通貨関連	-	204	-	204
資産計	808	204	300	1,313
デリバティブ取引				
通貨関連	-	347	-	347
負債計	-	347	-	347

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2025年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	1,018	-	1,018
負債計	-	1,018	-	1,018

当連結会計年度(2026年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	376	-	376
負債計	-	376	-	376

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。その他は非上場会社が発行した新株予約権等であり、原則、取得価額を基礎に金融商品の価値に影響を与える事象を考慮して、直近の時価を見積もって、レベル3の時価に分類しております。なお、投資時期と連結会計年度末が近い場合、時価と取得価額が近似すると考えて取得価額をもって時価として、レベル3の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっており、レベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

為替予約の時価は、取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類していません。

(注2) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債のうちレベル3の時価に関する情報

レベル3に該当する金融商品に重要性がないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(2025年3月31日)

区分		連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	541	77	464
	債券	-	-	-
	小計	541	77	464
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	30	99	69
	債券	549	550	0
	小計	579	649	70
合計		1,121	727	393

当連結会計年度(2026年3月31日)

区分		連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	708	91	617
	債券	-	-	-
	小計	708	91	617
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	400	400	-
	小計	400	400	-
合計		1,108	491	617

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	966	751	0
債券	-	-	-
合計	966	751	0

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	3	3	-
債券	202	62	-
合計	205	66	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

有価証券について(その他有価証券の株式111百万円)減損処理を行っております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

有価証券について(その他有価証券の株式271百万円)減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(通貨関連)

前連結会計年度(2025年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価(百万円)	
原則的処理方法	為替予約取引					
	売建					
	米ドル	売掛金	70	33	5	
	買建					
	米ドル	買掛金	3,424	-	33	
	ユーロ	買掛金	132	-	0	
	人民元	買掛金	3	-	0	
	小計		3,629	33	39	
	通貨オプション取引					
	売建プット					
米ドル	売掛金	22	-	19		
買建コール						
米ドル	買掛金	22	-	10		
小計		44	-	9		
合計			3,674	33	48	
為替予約等の振当処理	為替予約取引					
	売建					
	米ドル	売掛金	1,378	-	2	
	買建					
	米ドル	買掛金	1,575	-	9	
	ユーロ	買掛金	6	-	0	
人民元	買掛金	0	-	0		
合計			2,960	-	11	

当連結会計年度(2026年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価(百万円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	売掛金	1,636	-	260
	買建				
	米ドル	買掛金	3,398	1,587	128
	ユーロ	買掛金	162	-	6
	人民元	買掛金	5	-	0
	小計		5,201	1,587	125
	通貨オプション取引				
	売建プット				
米ドル	売掛金	2,973	-	87	
買建コール					
米ドル	買掛金	2,973	-	70	
小計		5,947	-	16	
合計			11,149	1,587	142
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	売掛金	1,922	-	35
	買建				
	米ドル	買掛金	1,627	-	128
	ユーロ	買掛金	12	-	0
人民元	買掛金	5	-	0	
合計			3,567	-	93

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。また、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,445	1,400
勤務費用	82	79
利息費用	21	30
数理計算上の差異の発生額	81	46
退職給付の支払額	67	140
退職給付債務の期末残高	1,400	1,323

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
年金資産の期首残高	1,920	2,095
期待運用収益	23	29
数理計算上の差異の発生額	41	43
事業主からの拠出額	226	220
退職給付の支払額	33	122
年金資産の期末残高	2,095	2,266

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	379	402
退職給付費用	39	42
退職給付の支払額	19	35
その他	2	2
退職給付に係る負債の期末残高	402	411

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,400	1,323
年金資産	2,095	2,266
	694	942
非積立型制度の退職給付債務	402	411
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	292	531
退職給付に係る負債	442	411
退職給付に係る資産	735	942
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	292	531

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
勤務費用	82	79
利息費用	21	30
期待運用収益	23	29
数理計算上の差異の費用処理額	7	12
簡便法で計算した退職給付費用	39	42
確定給付制度に係る退職給付費用	112	110

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
数理計算上の差異	30	79
合計	30	79

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（法人税等及び税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
未認識数理計算上の差異	137	215
合計	137	215

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
債券	38%	39%
株式	15%	14%
生命保険一般勘定	40%	39%
現金及び預金	2%	2%
その他	6%	6%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
割引率	2.2%	2.7%
長期期待運用収益率	1.4%	1.4%
予想昇給率	4.2%	4.2%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への拠出額は、前連結会計年度192百万円、当連結会計年度184百万円であり
ます。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金(注)	229百万円	393百万円
棚卸資産評価	135	127
未実現利益	3	4
賞与引当金	377	416
退職給付に係る負債	134	102
役員退職金	2	-
未払事業税等	58	100
有価証券評価	344	355
工事損失引当金	5	25
その他	187	326
繰延税金資産小計	1,480	1,853
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	193	393
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	344	355
評価性引当額小計	538	749
繰延税金資産合計	942	1,104
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	147	194
退職給付に係る資産	232	276
在外関係会社留保利益	205	230
その他	113	168
繰延税金負債合計	698	871
繰延税金資産の純額	244	233

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金 (a)	21	3	-	23	21	160	229百万円
評価性引当額	14	3	-	23	21	130	193百万円
繰延税金資産	6	-	-	-	-	29	36百万円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた金額であります。

当連結会計年度(2026年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金 (a)	3	23	21	26	30	288	393百万円
評価性引当額	3	23	21	26	30	288	393百万円
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-百万円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた金額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
法定実効税率 (調整)	法定実効税率と税効果会計 適用後の法人税等の負担率 との間の差異が法定実効税 率の100分の5以下であるた め注記を省略しております。	30.6 %
交際費・寄附金等永久に損金に算入されない項目		0.5 %
評価性引当額		5.2 %
住民税均等割		0.8 %
試験研究費の特別控除		0.8 %
持分法投資損益		0.8 %
その他		0.5 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率		36.1 %

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社及び一部の国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4. 会計方針に関する事項（6）重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権（期首残高）	14,252	13,324
顧客との契約から生じた債権（期末残高）	13,324	15,593
契約資産（期首残高）	1,087	1,146
契約資産（期末残高）	1,146	1,034
契約負債（期首残高）	1,063	1,264
契約負債（期末残高）	1,264	2,362

契約資産は、主にエネルギーインフラにおける流体荷役機械関連の製造販売及びメンテナンスサービスに関する契約について、期末日までに進捗度に基づき部分的に充足した履行義務に係る対価に関するものであります。契約資産は、完全に履行義務を充足した時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。

契約負債は、主に商品・製品の販売及び役務の提供にかかる顧客からの前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

前連結会計年度において、契約資産が58百万円増加した主な理由は、進捗度に基づき収益を認識する流体荷役機械関連のプロジェクトの増加によるものであります。また、前連結会計年度において、契約負債が200百万円増加した主な理由は、流体荷役機械関連のメンテナンスサービスに関する前受金の増加によるものであります。

当連結会計年度において、契約資産が111百万円減少した主な理由は、前連結会計年度以前から引き継いだ流体荷役機械関連のプロジェクト完了に伴う減少によるものであります。また、当連結会計年度において、契約負債が1,098百万円増加した主な理由は、流体荷役機械関連のメンテナンスサービスに関する前受金の増加によるものであります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
1年以内	5,873	7,285
1年超2年以内	3,727	2,322
2年超3年以内	-	728
3年超	-	375
合計	9,600	10,711

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、事業開発型商社グループとして持株会社である当社の傘下に各事業を行う事業会社があり、取り扱う商品・サービスごとに事業展開・戦略を立案し、事業活動を行っております。

従って、当社グループは、商品・サービスの開発、製造、販売を基礎とした事業会社別のセグメントで構成されており、「エネルギーインフラ」、「イメージソリューション」、「マテリアルサプライ」、「スマートマニュファクチャリング」の4つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

エネルギーインフラ・・・流体荷役装置及び関連機器、ガス関連各種機械、発電関連機器・装置等

イメージソリューション・・・監視カメラ及び画像解析システム、デジタルワイヤレスインカム、アクセスコントロール、インターホン等

マテリアルサプライ・・・製鉄用耐火レンガ・耐火材原料、セラミック及び資機材、鉄鋼製品、ワイヤーハーネス、各種圧延用鍛造ロール等

スマートマニュファクチャリング・・・三次元測定機、モデル加工機、計測データ管理ソフトウェア等

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

なお、マテリアルサプライセグメントにおける耐火物の輸入販売取引について、従来は売上高を純額で認識しておりましたが、当期首から売上高を総額で認識しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4 . 会計方針に関する事項 (6) 重要な収益及び費用の計上基準（追加情報）」に記載のとおりです。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額 (注)	連結
	エネルギー インフラ	イメージソ リューション	マテリアル サプライ	スマートマ ニュファク チャリング	計				
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	15,791	14,022	17,662	8,121	55,598	1,634	57,232	30	57,263
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	15,791	14,022	17,662	8,121	55,598	1,634	57,232	30	57,263
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	2	3	159	165	134	299	299	-
計	15,792	14,024	17,666	8,280	55,763	1,768	57,532	269	57,263
セグメント利益	2,919	1,713	1,553	540	6,727	35	6,762	2,247	4,515
セグメント資産	10,976	4,867	16,886	7,276	40,007	515	40,523	19,140	59,663
セグメント負債	4,145	3,239	6,178	2,256	15,819	128	15,947	498	16,446
その他の項目									
減価償却費	307	67	433	172	980	25	1,005	110	1,116
のれんの償却額	-	-	82	-	82	-	82	-	82
持分法適用会社への 投資額	-	-	1,060	-	1,060	348	1,408	-	1,408
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	292	113	195	223	824	16	841	9	851

(注) 1. 外部顧客に対する売上高の調整は、持株会社である当社で計上したものであります。

2. セグメント利益の調整額 2,247百万円には、セグメント間消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,247百万円が含まれております。全社費用は、当社で発生した持株会社機能に係る費用等であります。

3. セグメント資産の調整額19,140百万円には、セグメント間消去 92百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産19,232百万円が含まれております。全社資産は、報告セグメントには帰属しない持株会社資産であります。

4. セグメント負債の調整額498百万円には、セグメント間消去 108百万円、各報告セグメントに配分していない全社負債607百万円が含まれております。全社負債は、報告セグメントには帰属しない持株会社負債であります。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額 (注)	連結
	エネルギー インフラ	イメージソ リューション	マテリアル サプライ	スマートマ ニュファク チャリング	計				
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	17,388	13,874	24,111	8,232	63,607	140	63,747	36	63,783
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	17,388	13,874	24,111	8,232	63,607	140	63,747	36	63,783
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	7	-	481	489	38	528	528	-
計	17,388	13,881	24,111	8,714	64,096	178	64,275	491	63,783
セグメント利益	3,315	1,324	1,703	601	6,945	93	6,851	2,703	4,148
セグメント資産	11,702	5,724	18,459	7,932	43,818	532	44,350	17,697	62,048
セグメント負債	4,767	3,207	5,493	2,041	15,510	139	15,649	718	16,367
その他の項目									
減価償却費	290	77	413	163	944	13	957	43	1,000
のれんの償却額	-	-	82	-	82	-	82	-	82
持分法適用会社への 投資額	-	-	1,253	-	1,253	439	1,693	-	1,693
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	150	29	276	241	699	29	728	57	786

(注) 1. 外部顧客に対する売上高の調整は、持株会社である当社で計上したものであります。

2. セグメント利益の調整額 2,703百万円には、セグメント間消去210百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,914百万円が含まれております。全社費用は、当社で発生した持株会社機能に係る費用等でありまして。

3. セグメント資産の調整額17,697百万円には、セグメント間消去 109百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産17,806百万円が含まれております。全社資産は、報告セグメントには帰属しない持株会社資産であります。

4. セグメント負債の調整額718百万円には、セグメント間消去 125百万円、各報告セグメントに配分していない全社負債843百万円が含まれております。全社負債は、報告セグメントには帰属しない持株会社負債であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	オセアニア	アジア	欧州	米国	ロシア	その他	合計
42,972	368	12,193	337	430	118	841	57,263

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
4,280	798	62	5,141

(注) アジア地域の有形固定資産には、連結財務諸表の有形固定資産の10%以上を占めるインドネシアの有形固定資産693百万円が含まれております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
セコム株式会社	11,080	イメージソリューション

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	オセアニア	アジア	欧州	米国	ロシア	その他	合計
50,104	357	12,112	7	290	183	728	63,783

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	その他	合計
4,245	613	60	4,919

(注) アジア地域の有形固定資産には、連結財務諸表の有形固定資産の10%以上を占めるインドネシアの有形固定資産514百万円が含まれております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
セコム株式会社	10,676	イメージソリューション

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他	控除	合計
	マテリアル サプライ	計			
当期末残高	976	976	-	-	976

(注) のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他	控除	合計
	マテリアル サプライ	計			
当期末残高	893	893	-	-	893

(注) のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	9,980円47銭	10,550円92銭
1株当たり当期純利益	920円28銭	627円63銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,926	2,677
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	3,926	2,677
普通株式の期中平均株式数(株)	4,266,666	4,266,666

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,572	1,438	6.15	
1年以内に返済予定の長期借入金	214	214	1.36	
1年以内に返済予定のリース債務	76	51	6.15	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	804	162	1.36	2027年6月～2027年12月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	66	62	6.81	2027年4月～2031年6月
合計	2,734	1,928	-	

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を使用しております。

2. 長期借入金、リース債務の連結決算日後の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	162	-	-	-	-
リース債務	40	13	6	2	0

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高 (百万円)	26,343	63,783
税金等調整前 中間(当期)純利益 (百万円)	1,422	4,322
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 (百万円)	1,068	2,677
1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	250.32	627.63

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,787	13,538
営業未収入金	2 73	2 39
関係会社短期貸付金	3,609	5,684
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	370	320
未収入金	2 609	2 1,415
未収還付法人税等	10	12
その他	161	562
流動資産合計	19,621	21,572
固定資産		
有形固定資産		
建物	256	253
構築物	0	1
車両運搬具	9	6
工具、器具及び備品	17	42
土地	160	157
有形固定資産合計	445	460
無形固定資産		
ソフトウェア	14	9
その他	8	7
無形固定資産合計	23	16
投資その他の資産		
投資有価証券	2,974	2,628
関係会社株式	8,250	8,353
関係会社長期貸付金	1,270	910
保険積立金	49	49
敷金及び保証金	485	484
その他	91	88
貸倒引当金	33	33
投資その他の資産合計	13,087	12,481
固定資産合計	13,555	12,959
資産合計	33,176	34,531

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	2 626	2 830
未払法人税等	16	15
預り金	2 12,554	2 12,502
賞与引当金	78	155
その他	6	0
流動負債合計	13,284	13,503
固定負債		
長期未払金	2	2
長期預り保証金	2 1,418	2 1,484
繰延税金負債	49	65
固定負債合計	1,471	1,552
負債合計	14,755	15,055
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
利益剰余金		
利益準備金	565	620
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	13,113	14,005
利益剰余金合計	13,678	14,626
自己株式	561	561
株主資本合計	18,117	19,065
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	303	410
繰延ヘッジ損益	-	0
評価・換算差額等合計	303	410
純資産合計	18,421	19,475
負債純資産合計	33,176	34,531

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)	当事業年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日)
営業収益		
グループ配当金収入	1 2,727	1 3,512
グループ運営収入	1 1,029	1 203
その他の売上高	29	31
営業収益合計	3,786	3,748
営業総利益	3,786	3,748
販売費及び一般管理費	1, 2 2,469	1, 2 2,668
営業利益	1,317	1,079
営業外収益		
受取利息	1 79	1 128
受取配当金	27	19
固定資産売却益	7	37
その他	1 7	1 24
営業外収益合計	121	209
営業外費用		
支払利息	1 43	1 78
投資事業組合運用損	8	72
為替差損	6	17
固定資産除却損	2	3
その他	0	0
営業外費用合計	60	172
経常利益	1,378	1,117
特別利益		
投資有価証券売却益	3 751	-
関係会社株式売却益	598	0
特別利益合計	1,349	0
特別損失		
投資有価証券評価損	4 110	4 269
特別損失合計	110	269
税引前当期純利益	2,618	848
法人税、住民税及び事業税	140	623
法人税等調整額	14	32
法人税等合計	125	656
当期純利益	2,743	1,504

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	資本金	利益剰余金			利益剰余金合計		
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金				
当期首残高	5,000	513	10,934	11,448	561	15,887	
当期変動額							
剰余金の配当		51	565	513		513	
当期純利益			2,743	2,743		2,743	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	51	2,178	2,230	-	2,230	
当期末残高	5,000	565	13,113	13,678	561	18,117	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	836	-	836	16,723
当期変動額				
剰余金の配当				513
当期純利益				2,743
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	532	-	532	532
当期変動額合計	532	-	532	1,697
当期末残高	303	-	303	18,421

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	資本金	利益剰余金			利益剰余金合計		
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金				
当期首残高	5,000	565	13,113	13,678	561	18,117	
当期変動額							
剰余金の配当		55	612	556		556	
当期純利益			1,504	1,504		1,504	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	55	891	947	-	947	
当期末残高	5,000	620	14,005	14,626	561	19,065	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	303	-	303	18,421
当期変動額				
剰余金の配当				556
当期純利益				1,504
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	107	0	107	107
当期変動額合計	107	0	107	1,054
当期末残高	410	0	410	19,475

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券（金銭の信託含む）

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

投資事業有限責任組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）

子会社である組合については、決算日における組合の決算書に基づいて、持分相当額を総額で取り込む方法によっております。

子会社でない組合については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) デリバティブ

時価法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～27年
構築物	10年
車両運搬具	6年
工具、器具及び備品	3～20年

また、2007年3月31日以前に取得したのものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

諸債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(3) 投資損失引当金

投資に対する損失への対応を図るため、財務健全性の観点から、必要額を計上しております。なお、投資損失引当金は、当該資産の金額から直接控除しております。

4 収益及び費用の計上基準

当社の収益は、主に子会社からのグループ配当金収入及びグループ運営収入となります。グループ配当金収入については、配当金の効力発生日をもって認識しております。グループ運営収入については、当社の子会社に対するグループ運営上の業務支援、受託業務及びセグメント経営管理等のサービスの提供を履行義務として識別しており、サービスの提供に応じて収益を認識しております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の処理

繰延ヘッジ処理によっております。ただし、為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。

- ・ヘッジ手段とヘッジ対象

- ヘッジ手段

- 為替予約取引、通貨オプション取引

- ヘッジ対象

- 外貨建金銭債権債務

- ・ヘッジ方針

- 為替予約取引、通貨オプション取引は、外貨建金銭債権債務に係る急激な為替変動リスクを回避する目的で行っており、実需の範囲で実施しております。

- ・ヘッジの有効性評価の方法

- ヘッジ対象の相場変動と、ヘッジ手段の相場変動を比較し、両者の変動額等を基礎にしてヘッジの有効性を評価しております。ただし、特例処理である振当処理を行っている為替予約取引等については、有効性の評価を省略しております。

(2) 外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益としております。

(重要な会計上の見積り)

1 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
繰延税金負債	49	65

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、当事業年度末における繰延税金資産の回収可能性についての判断にあたり、会計上の見積りを行っております。この会計上の見積りは、主として、予算や中期経営計画に基づく翌事業年度以降の課税所得見込みに基づいて行われます。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際の課税所得が見込みと異なった場合、翌事業年度の財務諸表において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 保証債務

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
関係会社に対する仕入債務保証	1,400 百万円	1,400 百万円
関係会社に対する租税債務保証	250 百万円	250 百万円
関係会社に対する海外向保証(ポンド)	1,334 百万円	1,229 百万円
計	2,984 百万円	2,879 百万円

2 関係会社に対する金銭債権債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
短期金銭債権	666 百万円	1,355 百万円
短期金銭債務	12,551 百万円	12,527 百万円
長期金銭債務	1,418 百万円	1,484 百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	3,756 百万円	3,716 百万円
その他営業取引	157 百万円	387 百万円
営業取引以外の取引による取引高		
営業取引以外の取引(収入分)	75 百万円	81 百万円
営業取引以外の取引(支出分)	43 百万円	78 百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
賞与引当金繰入額	78百万円	155百万円
従業員給与	423百万円	773百万円
業務委託費	839百万円	692百万円
減価償却費	113百万円	44百万円
おおよその割合		
販売費	0 %	0 %
一般管理費	100 %	100 %

3 投資有価証券売却益

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

特別利益に計上しております投資有価証券売却益は、政策保有株式の売却によるものであります。

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

4 投資有価証券評価損

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

「その他有価証券」に区分される有価証券のうち実質価値が著しく下落したものについて、減損処理を実施したものであります。

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

「その他有価証券」に区分される有価証券のうち実質価値が著しく下落したものについて、減損処理を実施したものであります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格のない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
子会社株式	7,724	7,828
関連会社株式	525	525
計	8,250	8,353

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
有価証券評価損	118百万円	171百万円
会社分割時に取得原価から控除した承継税資産相当額	84	84
繰越欠損金	193	332
ゴルフ会員権評価損	22	22
賞与引当金	24	49
譲渡損益調整資産	17	17
繰延資産超過額	1	10
未払社会保険料	4	11
その他	5	3
繰延税金資産小計	471	704
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	193	332
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	182	243
繰越外国税額控除等	-	0
評価性引当額小計	375	575
繰延税金資産合計	96	128
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	146	193
その他	-	0
繰延税金負債合計	146	193
繰延税金資産（負債）の純額	49	65

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
法定実効税率	30.6 %	30.6 %
(調整)		
交際費・寄附金等永久に損金に算入されない項目	0.9 %	0.3 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	31.8 %	124.0 %
外国子会社からの受取配当等の益金不算入額	- %	10.3 %
評価性引当額	1.1 %	23.4 %
繰越欠損金の消滅	0.0 %	1.6 %
その他	3.3 %	1.0 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	4.7 %	77.3 %

3 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

当社の収益は、主に子会社からのグループ配当金収入及びグループ運営収入となります。顧客との契約から生じる収益を理解するための情報は、「注記事項（重要な会計方針） 4．収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	上場(国内)		
		東京海上ホールディングス(株)	76,185	556
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	51,410	133
		その他2銘柄	36,593	18
		その他		
	国内その他14銘柄	426,848	1,169	
計		591,036	1,878	

【債券】

銘柄		券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ 第3回任意償還条項付無担保永久社債	100
計		100	100

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	(投資事業有限責任組合への出資)		
		i-nest1号投資事業有限責任組合	5,000	289
		その他5組合	1,970	360
計		-	649	

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産						
建物	256	19	-	22	253	195
構築物	0	0	-	0	1	1
車両運搬具	9	-	-	3	6	27
工具、器具及び 備品	17	37	0	12	42	122
土地	160	-	3	-	157	-
有形固定資産計	445	58	3	38	460	346
無形固定資産						
ソフトウェア	14	-	0	5	9	
その他	8	-	-	0	7	
無形固定資産計	23	-	0	6	16	

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
貸倒引当金	33	-	-	33
賞与引当金	78	155	78	155

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	株券不発行制度導入（2008年6月26日定時株主総会決議）
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 本支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	該当事項はありません。
単元未満株式の買取り	
取扱場所	
株主名簿管理人	
取次所	
買取手数料	
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 http://www.tokyo-boeki.co.jp/
株主に対する特典	なし

- (注) 1. 定款により株式の譲渡につき取締役会の承認を必要とする制限が付されております。
2. 単元株制度は採用していません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、上場会社でないため金融商品取引法第24条の7第1項の適用がありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第105期(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) 2025年6月26日関東財務局長に提出

(2) 半期報告書

第106期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日) 2025年11月14日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2026年6月26日

東京貿易ホールディングス株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 陶江 徹

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 吹上 剛

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京貿易ホールディングス株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京貿易ホールディングス株式会社及び連結子会社の2026年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

工事契約における一定の期間にわたり充足される履行義務に係る売上高の計上	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項） 4. 会計方針に関する事項（6）重要な収益及び費用の計上基準に記載のとおり、一部の連結子会社では、流体荷役機械関連の製造販売及びメンテナンスサービスの提供（以下、工事契約という。）に関して、一定の期間にわたり充足される履行義務につき、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識している。当連結会計年度における一定の期間にわたり充足される履行義務に係る売上高は、6,244百万円である。なお、履行義務の充足に係る進捗度は、見積総原価に対する発生した原価の割合によって算出される。</p> <p>エネルギーインフラセグメントの工事契約は、主に流体荷役機械及び関連機器の設計、製造、施工、据付等を請け負うものであり、長期にわたる契約が多く、契約内容も顧客との合意に基づく仕様を満たすため個性が強い。</p> <p>売上高計上の基礎となる履行義務の充足に係る進捗度は、決算日までに発生した原価と見積総原価の比較により算出するが、総原価の見積りは、工事着手後における仕様の変更や現場の状況の変化等により影響を受ける。そのため、工事契約ごとに実行予算を策定したうえで、工事の進捗状況を踏まえて、適時に総原価の見直しを行っているが、この見積りは不確実性を伴うものである。</p> <p>以上より、工事契約における一定の期間にわたり充足される履行義務に係る売上高は、連結財務諸表において重要であり、進捗度の算出に不確実性を伴うため、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、工事契約における一定の期間にわたり充足される履行義務に係る売上高（以下、工事売上高という。）の検討に当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事契約の受注から工事売上高計上に至るまでの内部統制について、その整備状況及び運用状況を評価した。 ・ 工事契約一覧を閲覧し、一定の期間にわたり充足される履行義務として抽出すべき工事契約が網羅的に抽出されているかについて検討を行った。 ・ 一定の基準により抽出した工事契約について、決算日時点の工事契約額及び工期に関する確認書を顧客に送付して回収し、会社の認識と一致しているかについて検討を行った。 ・ 一定の基準により抽出した工事売上高について、契約書や注文書の閲覧を実施するとともに、必要に応じて責任者に質問を実施した。 ・ 一定の基準により抽出した工事売上高に係る原価について、工事売上一覧の見積総原価が適時に更新され、発生した原価が正確に集計されていることを確かめるため、承認された竣工原価表を閲覧し、必要に応じて証憑突合や責任者への質問を実施した。 ・ 当連結会計年度において完成した工事契約案件について、総原価の見積りと実績とを比較し、当連結会計年度における進捗度の算出に関する会社の見積りプロセスの有効性を評価した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうかを注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家と

しての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年6月26日

東京貿易ホールディングス株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 陶江 徹

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吹上 剛

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東京貿易ホールディングス株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第106期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東京貿易ホールディングス株式会社の2026年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

当監査法人は、監査報告書において報告すべき監査上の主要な検討事項はないと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を

行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。